

第七十三回 帝國議會 衆議院

商法中改正法律案外一件委員會議錄(速記)第十一回

付託議案
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)商法中改正法律施行法案(政府提出、貴族院送付)
有限會社法案(政府提出、貴族院送付)

付)

昭和十三年三月十七日(木曜日)午前十時二十五分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 野村 嘉六君

理事西田 郁平君 理事仲井間宗一君

理事石坂 繁君

理事宮崎 一君 理事紅露 昭君

理事西田 郁平君 理事仲井間宗一君

理事石坂 繁君

理事宮崎 一君 理事紅露 昭君

理事石坂 繁君

○野村委員長 是カラ開會致シマス——西田君
○西田委員 昨日同僚間ニ於テ相談シテ見テ戴キタイト思ヒマス、株主ニアラザル者ガ取締役ニナルコトガ出來ル、斯ウ云フコトニナッテ居リマス、株主總會トノ關係ニ於キマシテ、株ヲ持タナイ取締役ガ、株主總會ニ出タ場合ニ於ケル態度ト言ヒマスカ、全然表決權ガナイト致シマスレバ、取締役ト云フモノハ唯支配人ノ少シ上等ナモノト云

○大森政府委員 御尤ノ御質問デアリマス、先ヅ第一點ノ取締役ト支配人トノ異同デアリマス、御承知ノ通リニ會社ノ雇人デアルト云フ點カラ申シマスナラバ、此雇人ト云取締役モ支配人モ共ニ雇人ト云フコトハ言ヘルダラウト思ヒマス、是ハ取締役ガ株主ト思ヒマス、然ラバ株主デナイ取締役ヲ認メシタガ、御承知ノ通リニ支配人ト取締役トノ

○石坂委員 全體ニ付テ質疑ガ出來マスナラバ一言御伺致シタイト思ヒマス、是ハモウドナタカラカ既ニ御質疑ガアツカモ知レマヌガ、株式會社ノ資本金額ノ最低限度デアリマス、株式會社ト云フノハ勿論商行爲ヲ爲スモノデアリマスガ、今日ノ情勢カラ見マシテ、段々公ケノ性質ヲ持ツテ參テ來テ居ルノデアリマス、殊ニ最近統制會社ト云フヤウナモノガ段々出來マスルト云

○大森政府委員左ノ如シ
○司法省民事局長 大森 洪太君
○司法省刑事局長 松阪 廣政君
○本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
○商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)ニモ表決權ヲ與ヘルヤウナ制度ヲ作ッタ
方ガ宜イデヤナイカ、斯ウ云フ議論ガアルノデアリマスガ、其點ニ付テ司法省ノ御考ヲ一つ御伺致シマス
○大森政府委員 御尤ノ御質問デアリマス、先ヅ第一點ノ取締役ト支配人トノ異同デアリマス、御承知ノ通リニ會社ノ雇人デアルト云フ點カラ申シマスナラバ、此雇人ト云取締役モ支配人モ共ニ雇人ト云フコトハ言ヘルダラウト思ヒマス、是ハ取締役ガ株主ト思ヒマス、然ラバ株主デナイ取締役ヲ認メシタガ、御承知ノ通リニ支配人ト取締役トノ
○石坂委員 全體ニ付テ質疑ガ出來マスナラバ一言御伺致シタイト思ヒマス、是ハモウドナタカラカ既ニ御質疑ガアツカモ知レマヌガ、株式會社ノ資本金額ノ最低限度デアリマス、株式會社ト云フノハ勿論商行爲ヲ爲スモノデアリマスガ、今日ノ情勢カラ見マシテ、段々公ケノ性質ヲ持ツテ參テ來テ居ルノデアリマス、殊ニ最近統制會社ト云フヤウナモノガ段々出來マスルト云

シテ其運用ヲ誤ラナイヤウニスルト云フコトニ付テノ御意見ハ種々アリマシテ、昨年當リ此點ニ付キマシテモ、局長ノ御意見ヲ伺タコトヲ記憶致シテ居リマスガ、今般新ニ有限會社法ト云フモノガ出來テ參リマスト、此株式會社ノ公ノ性質ニ鑑ミテ、商法第百六十六條ノ資本ノ總額ト云フモノノ最低限度ヲ決メル必要ガアルノデハナイカト思フノデアリマス、有限會社法第九條ニハ「資本ノ總額ハ一万圓ヲ下ルコトヲ得ズ」ト云フコトニナツテ居リマス、ソコデ株式會社ニモ或ル限度ノ資本ノ最低限度ノ規定ヲ設ケルト云フコトガ、會社ノ信用上、尙ホ公共ノ取引ノ上カラ適當デハナイカト思フノデアリマスガ、ソレニ對シテ當局ノ御意見ヲ伺ヒタコト思ヒマス

○大森政府委員 御指摘ニ相成リマシタヤウニ、有限會社ニ於キマシテハ法案ノ第九條ニ依リマシテ、資本ノ最少限度ヲ決メテ直接資本ノ最少限度ヲ決メタ規定ハナイノデアリマス、此點ニ付テ何ダカ本末顛倒ノ憾ミガアルデハナイカト云フヤウナ非難モ、屢々承ッタノデアリマス、御承知ノ通リニ有限會社ニ最少限度ヲ決メマシタ所ノモノハ、有限會社ハ其組織ナリ管理方法ナリガ、極メテ

簡易デアリ單純デアリマスルカラ、其設立モ容易ニナツテ居ルノデアリマス、即チ其設立ニ付テ法律ガ干涉スル部分ガ、極メテ少イノデアリマス、デアリマスルカラ一個人ガ有

限會社デナツテ拘ラズ、有限會社ヲ假裝シテ取引界ニノサバリ出ルト云フ危険ガ、想像シ得ラレルノデアリマス、若シ左様ナコトガアリマスルナラバ、會社デナイモノガ會社ノヤウナ額ヲシテ取引ヲスル、是ハ取引ノ安固ヲ害スル所以デアリマス、又一般ニ有限公司其モノカラ見マスルト、有限公司デナイモノガ有限公司ノヤウナ額ヲスルノデアリマスルカラ、自己ノ信用ヲ傷ツクル譯デ、有限公司トシテハ迷惑ナ譯デアリマス、左様ナ關係カラ致シマシテ、外國ノ法制ニモ概々有限公司ニハ最少限度ヲ決メテ居ルヤウデアリマス、右弊害ノ豫防ノ爲ニ此案ノ第九條ヲ設ケタ次第デアリマス、而シテ株式會社ノ方ニ付キマシテハ、御承知ノ通リニ公的性質モ固ヨリ考ヘナケレバナ

二條ニ其手續ニ關スル規定ガアリマシテ、是ハ舊法ト大シテ變リハアリマセヌ、多少招集ニ關スル通知ハ議決權ノ行使ニ重キヲ置イタ意味カラ「議決權ナキ株主ニ付テハ之ヲ適用セズ」ト書イテアルノデアリマス、ソコデ恐ラク此法カラ行クナラバ、取締役会ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外取締役之ヲ招集ス」ト書イテアル、二百三十ノデアリマス、此點ノ説明ハドウ云フヤウマス譯デアリマス、改正案ノ二百三十一條以下デアリマスガ、二百三十一條ニハ「總會ハ例ヘバ六名迄ハ決議ニ携ツタ、四名方携ツノデアリマス、此當局トシテ御考ニナツテ居リマセウカ、是ニ當局トシテ御考ニナツテ居リマセウカ、是ノデアリマス、此點ノ説明ハドウ云フヤウキ株主タラザル取締役ニ對シテハ、總會ノ招集ノ通知ガ故ラニ落シ得ルヤウニ見エルノデアリマス、此點ノ説明ハドウ云フヤウテ居ナカ、此四名ト云フモノハ議決權ノナ

イ株主デアル、此取締役ニハ總會ノ招集ヲ通知シナクテモ宜イデハナイカ、斯ウ云フ妙ナ現象ガ先程ノ御説明又法ノ體裁カラスレバ、アリ得ルノデアリマス、絕對ニナイトハ言ヘナイ、サウ云フコトハ差支ナイト云フ御意見ノ下ニ法ガ出來テ居リマセウカ○大森政府委員 只今ノ御指摘ニナリマシタ第二百三十二條末項ノ規定ハ、御述ベニナリマシタ通リニ、株主デアツテ議決權ノナリマス株主ニ付テノ問題デアリマス、デア

モ角ト致シマシテ、過半數デ宜イト云フコトニナリマスト、而モ取締役會等デ隨分採用ルコトモアルノデアリマス、其時ニ取締役ハ招集權ヲ有ツテ居ル、招集決議ハ過半數デ宜イ、過半數ニ滿タザル者ハ「オミット」サレル譯ダト思ヒマス、ソコデ總會ノ招集ニ對シテ今申上ガタヤウニ、取締役中株式ヲ有タザル者ハ議決權ノ行使ガ出來ナイト云フ先程ノ御説明モアリマシタカラ、議決權ナシテ今申上ガタヤウニ、取締役中株式ヲ有タザル者ハ議決權ノ行使ガ出來ナイト云フト思ヒマス、即チ西田君ノ御質問ノ趣旨ハ、株主タラズシテ取締役タルコトガ出來ルト云フ新設ノ規定ニ對スル御質問デアルト思ヒマス、即チ西田君ノ御質問ノ趣旨デアリマス、私ハヤハリソレニ關係致シマシテ、株主總會ノ招集ノコトデ御尋致シノデアリマス、改正案ノ二百三十一條ノデアリマスガ、二百三十一條ニハ「總會ハ例ヘバ六名迄ハ決議ニ携ツタ、四名方携ツノデアリマス、此點ノ説明ハドウ云フヤウキ株主タラザル取締役ニ對シテハ、總會ノ招集ノ通知ガ故ラニ落シ得ルヤウニ見エルノデアリマス、此點ノ説明ハドウ云フヤウテ居ナカ、此四名ト云フモノハ議決權ノナ

リマスルカラ株主ニアラザル取締役ニハ、過
直接關係ノナイ規定デアリマス、而シテ又
御指摘ニナリマシタ第二百三十六條ニハ、
例ヘバ取締役ガ總會ヲ招集シマスニハ、過
半數ノ決議デ宜イノデアリマスルカラ、此
招集ノコトニ付テ贊成ラシナカツタ取締役、
而モソレガ株主デナカツタ場合ハ、之ニ對シ
テ招集ノ通知ヲ爲スベキモノデアルカ、爲
サナクテモ宜イモノデアルカト云フコトニ
付テ、此法案ハ總テ之ヲ事實ニ任セテ居ル
ノデアリマス、即チ其處マデ法律ガ干涉ス
ルノ必要ガナイ、斯様ニ考ヘタ次第デアリ
マス、併シ實際ニ於キマシテハ、無論取締
役デアリマスカラ、是ガ株主デナクトモ通
知ヲスルダラウト思フノデアリマス、ソレ
ダケノ事實ニ任セテ置キマシテ、一向運用
上ハ差支ナイモノト考ヘタ次第デアリマス、
左様御諒承ヲ願ヒマス

○内藤委員 只今ノ政府ノ御説明カラ見レ
バ、今申シテ居タヤウナ妙ナ現象ガ起ッテ
モ、是ハ事實ニ任スト云フコトノ結論ニナ
ルノデアッテ、取締役中總會ヲ知ラザル者ガ
出来ルト云フ事柄ハ、政府トシテモ御承認
セウカ

○大森政府委員 左様ナ弊害ハ現行法ノ下
ニモ起ルノデアリマス、又現ニ起タコトモ
アルヤウデアリマス、御承知ノ通りニ此第
二百三十六條ヲ新設致シマシタ所以ハ、左
様ナ弊害ノ一端ヲ是テ防ガウト云フ積リデ
アリマス、御承知デモアリマセウガ、甲取締
役ガ株主總會ヲ、例ヘバ三月一日ニ「エー」
ノ土地デ開クト云フ通知ヲ出シ、乙ノ取締
役ガ同日ニ「ビー」ノ土地デ總會ヲ
開クト云フ通知ヲ出シタト云フヤウナ事例
ガアツクノデアリマス、左様ナ場合ニ「エー」
地ニ於ケル總會ガ有效デアルカ、「ビー」地
ニ於ケル總會ガ有效デアルカト云フ
雙方ニ於ケル總會ガ有效デアルカト云フ
問題モ生ジマシテ、而モ「エー」「ビー」雙
方ニ於ケル總會ノ決議ガ相反シタ場合ニ、
ドウナルカト云フ問題ガ生ジマシテ、ソレ
ガ爲ニ此第二百三十六條ヲ設ケタノデアリ
マシテ、第二百三十六條新設ノ趣旨ハ、左
様ニ御諒承願ヒタイノデアリマス、而シテ
取締役ニ通知ヲ發シマセヌ場合ニ於テ、其發
シナイコトガ「著シク不公正」デアリマスル
ナラバ、第二百四十七條ノ取消問題ニナル
ノデアリマス、而シテ其取消ノ事由ニ付テ
「著シク不公正」デアルト云フコトヲ新ニ加ヘ
タノデアリマス、其具體的ノ場合ニ於テハ、
如何ナルモノガ竝ニ所謂「著シク不公正」ニ

ニモ起ルノデアリマス、又現ニ起タコトモ
アルヤウデアリマス、御承知ノ通りニ此第
二百三十六條ヲ新設致シマシタ所以ハ、左
様ナ弊害ノ一端ヲ是テ防ガウト云フ積リデ
アリマス、御承知デモアリマセウガ、甲取締
役ガ株主總會ヲ、例ヘバ三月一日ニ「エー」
ノ土地デ開クト云フ通知ヲ出シ、乙ノ取締
役ガ同日ニ「ビー」ノ土地デ總會ヲ
開クト云フ通知ヲ出シタト云フヤウナ事例
ガアツクノデアリマス、左様ナ場合ニ「エー」
地ニ於ケル總會ガ有效デアルカ、「ビー」地
ニ於ケル總會ガ有效デアルカト云フ
雙方ニ於ケル總會ガ有效デアルカト云フ
問題モ生ジマシテ、而モ「エー」「ビー」雙
方ニ於ケル總會ノ決議ガ相反シタ場合ニ、
ドウナルカト云フ問題ガ生ジマシテ、ソレ
ガ爲ニ此第二百三十六條ヲ設ケタノデアリ
マシテ、第二百三十六條新設ノ趣旨ハ、左
様ニ御諒承願ヒタイノデアリマス、而シテ
取締役ニ通知ヲ發シマセヌ場合ニ於テ、其發
シナイコトガ「著シク不公正」デアリマスル
ナラバ、第二百四十七條ノ取消問題ニナル
ノデアリマス、而シテ其取消ノ事由ニ付テ
「著シク不公正」デアルト云フコトヲ新ニ加ヘ
タノデアリマス、其具體的ノ場合ニ於テハ、
如何ナルモノガ竝ニ所謂「著シク不公正」ニ

○仲井間委員 債權者集會ニ關スル規定ハ
會社ノ整理ニ關スル規定ノ發動ノ關係デゴ
ザイマスカ

○大森政府委員 先程ノ御尋ヲ、私ハ債權
者集會ト承ツタモノデアリマスルカラ、左様
ナ御答ヲシタノデアリマス、債權者集會ノ
方ハ特別清算ダケデアリマシテ、整理ニハナ
イノデアリマス、併シ只今御示シノ社債權
者集會ハ、會社ノ整理ノ場合モアリ得ル譯デ
アリマス、是ハ御承知ノ通りニ併立シテ、
ヲ遂行致シマスル一つノ補助的手續デアル
ノデアリマス、所ガ整理ハ御承知ノ通りニ
解散前ノ問題デアリマス、隨テ會社ノ整理
手續ニハ債權者集會ト云フモノハナイノデ
アリマス、左様ニ御諒承ヲ願ヒタイノデア
リマス

○仲井間委員 サウ致シマスルト、ヤハリ
會社ニ對スル債權者モ亦社債權者集會モ、
皆同ジヤウニ取扱ハレテ行クノデスカ
左様ニ御諒承ヲ願ヒマス

○中井間委員 債務超過ノ惧レガアル、或
ハ疑ヒガアル場合ニ、會社ノ整理ノ開始ガ
行ハレルコトニナル譯デアリマスカ、サウ
致シマスルト、一方ニ於テ此社債權者ノ救
濟ヲ得ル其集會ハ、別ニ又出來テ居ルノデ
アリマスカ、其集會ト整理トノ關係デゴザ
トナツテ多數居ルノデアリマス、而モ之ヲ一
團的ニ考ヘマスルト、極メテ重要ナ地位デ
アリマスルカラ、是等ノ權利行使ニ付テ特
ニ社債權者集會ト云フモノヲ設ケタ次第デ
アリマス、デアリマスルカラ、是等ハ社債
權者集會ノ決議ニ則リマシテ權利ノ行使ヲ
スル、斯様ナ關係ニ相成ルノデアリマス

ガ御出席ニナツカラ、此機會ニ主トシテ罰則ノ點ニ付テ御伺ヲ致シタイト思ヒマス、併ナガラ其前提トシテ一言言葉ヲ費シテ置キタイト存ズル次第アリマス、過日本會議竝ニ此委員會ニ於テ、或ハ大臣ヨリ、或ハ政府委員ヨリ本改正案ノ必要ナルコト、又時代ノ趨勢ニ鑑ミテ、現行法ハ餘程古キモノデアル、唯解釋判例等ニ依ツテ相當弊害ヲ除去スルヤウニ努メテハアルケレドモ、之ヲ以テシテハ満足スルコトハ出來ナイカラ、時代ノ趨勢ニ從ツテ此改正案が出來タト云フ説明デアリマス、ソレガ爲ニ從來ノ規定ノ補充若クハ新設、或ハ判例デ決ツタ點ヲ改正致サレマシタ其勞ニ對シマシテハ、多トスルノデアリマスガ、併ナガラ此法案ノ出來タ過日來ノ御話ノ組立ヲ見マシテモ、昨今是ガ考ヘラレタ問題デハアリマセヌノデ、ソレドヽノ委員會ノ手ヲ經タ意見ヲ参考ニシテ、出來テ居ルヤウデアリマス、併ナガラ何レモ二三年前ノ答申ニ係ルモノガ基準ニナツテ居リマスノデ、二三年此方ニ於ケル社會ノ變遷ト云フモノハ、此法案ノ上ニ於テ新シク考ヘラレテ居ルヤウニモ私共受取レマセヌ、ソコデ先づ是ハ政府委員ノドチラデモ宜シウゴザイマスガ、御答辯ニ與カリタ

商工會議所ノ理事ニ聞イタトカ、或ハ委員會ノ方ニ諸ツタトカ、或ハ朝野ノ方ノ意見ヲ聞イタトカ、ソレヽ照會狀ヲ出シテ各方面ノ意見ヲ徵シタト云フ説明ガアリマシタガ、罰則ニ付テハ各方面ニ意見ヲ徵セラレタト云フ御言葉ハ、一ツモナイノデアリマス、是ハ罰則以外ノモノダケニ付テ意見ヲ徵セラレタト承ツテ宜シイデセウカ、之ヲ一ツ御伺シマス

○松阪政府委員 商法ノ罰則ニ付キマシテモ、調査會ノ要綱ガ定メラレテ、ソレニ基イテ作ツタ次第デゴザイマス

○内藤委員 調査會ノ要綱ニ基イテ意見ヲ徵シタトイ云フ御話デアリマスガ、サウ致シマスト廣ク意見ヲ徵シタノデハナクテ、調査會ダケノ意見ヲ徵セラレテ、其答申ニ基イテ之ヲ是ナリトシテヤラレタト云フコトニナリマスト、意見ヲ徵セラレタ範圍ガ狹イノデハナイカト思フノデアリマス、ヨリ政府ノ見ル所ニ依ッテ、時代ニ鑑ミテソレゾレノ罰則ハ御決メニナツタデアラウトハ存ジマスケレドモ、動モスレバ近時裁判ノ趨勢ハ感情ニ制セラレテ、此間モ此委員會デ議論ガアツタト思ヒマスガ、甲ト乙トノ官廳ニ依ッテ取扱

ニハ司法權ハ、天皇ノ名ヲ以テ裁判所ガ之ヲ
行フトアリマシテモ、軍人軍屬ノヤウナ方
ニ付テハ、ソレゞ、陸海軍ノ特別ノ刑法ガ
アル、同一事案デアツテ、事軍機ニ關セナイン
モノデモ、普通裁判所デ行フノト特別裁判
所デ行フノト、刑ノ量定ガ非常ニ違ッテ來
ルト云フコトハ、御承知ノ通りデアリマス、
ソコデサウ云フヤウナ事柄デ、罰則ニ付テ
ハ餘程御注意シテ戴カヌト、思ハザル結
果ヲ招クノデハナイカト思フノデアリマス、
ソレヲ前提ニシテ私ハ御尋ヲスル譯デアリ
マス、例ヘバ此改正案ノ中ニ、所謂現行刑
法ノ瀆職罪ニ匹敵スルヤウナ條項、ソレト
似タヤウナ條項ガアリマシテ、罰スルト云
フ御説明ヲ此間承^タノデアリマス、現ニ
ツノ例ヲ以テシマスレバ、此法案ハ株式合
資會社ト云フモノニアツテハ、其無限責任社
員、株式會社ニアツテハ取締役、監査役、又
支配人或ハ職務代行者ト云フヤウナ資格ガ
限定シテアリマシテ、其罰則ハ合名會社ト云
云フモノハ拔ケテ居ルノデアリマス、固ヨ
リ狙ヒ所ハ、株式會社ニ付テ從來起^タ例カ
ラ鑑ミラレマシテ、特ニ重ク色々ノ條項ヲ

等シキ法人ノ事業者デアリマスカラ、罰スベキ場合ガアリト致シマスナラバ、彼此申乙ガナイヂヤナイカ、唯商法ノ株式會社ト云フモノハ、特殊ノモノデアリマスカラト云フコトデハ、理窟ニハナラヌト思フノデアリマスガ、何故ニ此罰則ヨリ他ノ會社ヲ御拔キニナリマシタカ、合名會社及ビ合資會社ト云フモノニ對スル關係ハ拔イテ居ルノデアリマス、是ガ甚ダ遺憾ダト思フノデスガ、特ニ拔カレタト云フ意味ヲ、株式會社ノ實質ニ鑑ミテ、是ハ取締ルベキデアルト云フダケノ御説明デハ懽ラヌノデアリマシテ、モットドウシテ、ソレダケノ責任ヲ帶ビナケレバナラヌカト云フ理由ヲ、特別ニ御説明ニ與リタイト思ヒマス

罰則ヲ規定シタ次第ニアリマス、第二ノ御尋ノ第七章ノ罰則ハ、主トシテ株式會社若クハ株式合資會社ノ役員等ニ付テ定メラレテ居リマス、各會社合資會社ノ役員ニ付テハ、罰則ヲ設ケナカツタノハ、何故カト云フ御尋デアリマスガ、ソレニ付キマシテハ前回ニモ申上ダマシタ通り、株式會社ノ本質、其企業形態ガ今日デハ多數ノ株主ヲ擁シ、又社債權者モ多數ニ及ビ、一般社會公衆トノ關係ヲ持ツコトガ、非常ニ多イト云フ此社會性、企業ノ實質ニ鑑ミマシテ、之ヲ相當酷シク取締ル必要ガアル、是ハ社會公序取締ノ上カラ、必要ガアルカラト云フ立場カラ、斯様ナ規定ヲ設ケマシタ次第デ、合名會社ノ役員ニ至リマスト、是ハ餘程株式會社ト本質ニ違フ所ガアリマシテ、大分個人企業ニ似テ參ル所ガアルノデアリマス、社會公共ニ及ボス影響ガ、甚シクトハ申セナイカモ知レマセヌガ、相當ニ株式會社トハ異ツテ居ルノデアリマス、隨テ現行商法ニ於キマシテモ、合名會社、合資會社ニハ左様ナ罰則ハ設ケナカツタノデアリマス、今日直チニ合名會社ノ役員ニ本法案ト同様ナ罰則ヲ設ケルト云フコトハ、餘リニ行過ギルコトデアルト考ヘマシテ、合名會社、合資會社ニ付キマシテモ刑罰ヲ設

罰則ヲ規定シタ次第ニアリマス

○内藤委員 ソコハ私共ト政府當局トノ認識不足ダト云フ言葉デ爭ガ起ルノグラウト思ヒマス、政府當局ノ御説明ハ、今日アリマス

ケナカツタ次第ニアリマス

スル大事業會社ダケヲ目標トシテ、株式會社ダト云フヤウナ御心持デアリマス、併ナニ於テハ稅法ノ關係ニ於テ、動モスレバ査定額多キニ失シ、若クハ累進課稅ノ點カラ

ガラ世ノ中ノ實情ヲ見マスルト、個人所得ニ於テハ稅法ノ關係ニ於テ、動モスレバ査定額多キニ失シ、若クハ累進課稅ノ點カラ

スル、殊ニ私共ノ見テ居リマス大阪方面ニ於テハ、相當ナ資產家ニシテ政府ノ豫期セザル同族會社デアルニ拘ラズ、之ヲ株式會社トシテ累進課稅ヲ避ケルヤウナ傾向ニアルノデアリマス、面白クナイ現象カモ存ジマセヌケレドモ、人ト致シマシテハ、不都合ナ話デアリマスケレドモ、成ベク稅額ヲ少ク納メタイト云フコトカラノコトトモ想像セラレルノデアリマス、故ニ今政府當局

困難ト思ハレタカ、司法政務次官八並氏竝

モウ一ツハ、此法令ノ中ニハ、此間カラノ

ニ小山司法大臣モ、サウ云フ事ハ裁判所モ考ヘテ居リマスカラ、ヨクノノ場合デナ

ケレバ體刑ヲ科スルコトハアリマセヌ、ソ

レハ罰金ヲ科スル積リデアリマス、斯ウ云

フヤウナ御説明デ、オ互ヒ將來間違ガアッテ

ハイカヌト云フノデ、大臣ハ卷紙ニ書イタ

モノヲ御讀ミニナツテ速記ニ御殘シニカツタ、

コデ昨年ノ七十議會ニ現レタル速記録カラ

罰セラレルコトニナツテ居ルト思ヒマス、ソ

ガ、ソレ以外ノモノハ此法條ニ依レバ重ク

見マシテモ、儀禮的ハ咎ヌスト云フコトニナツテ居リマスガ、此儀禮的ト云フ、文字ダ

ケデハ、其説明ダケデハ、私ハ非常ニ賴リ

ナイト思フノデアリマス、此點ヲドウシテ

モ速記ニ取ツテ明確ニシテ置カナケレバナ

ラヌ、尙ホ最終ニ當ツテハ大臣ヨリ、特ニ

此ノ點ノ明言ヲシテ戴カナケレバナラヌト

ルニ當ツテ、日本全國ノ中ニハ、辯護士ノ中

デ惡質ノ犯罪ナラズシテ禁錮以上ニ處セラ

レタ失格者ガ可ナリ出タト云フコトガ、實

ルニ當ツテ、日本全國ノ中ニハ、辯護士ノ中

デ惡質ノ犯罪ナラズシテ禁錮以上ニ處セラ

レタ失格者ガ可ナリ出タト云フコトガ、實

状デアリマス、政府ノ議場ニ於テノ明言ハ、

淘ニ宜イヤウデアリマスケレドモ、實際ノ

取扱ニ付テハ司法權ハ上官ト雖モ干渉スル

コトハ出來マセヌカラ、自由ナ立場ニ於テ

裁判ノ執行ニ當ラレルト云フコトニナリマ

スト、上司ノ思フ處ト正反對ノ現象ヲ生ジ

テ、私共面喰タコトガアルノデアリマス、

故ニ國務大臣ノ明言ガ議場ニアツテモ、運用ニ

當ツテハ何レモ背馳シタ現象ヲ呈スルト

云フコトデ、私共信用ガ置ケナクナル、政

府委員ガ茲ニ如何ニ聲ヲ御嘆シニナツテ弊

害ヲ除去スルト仰シヤツテモ、運用ニ當ツテ

ハ人ニ依ツテ違フコトガアリマスノデ、殊ニ

一つノ場合ヲ申上ゲマスナラバ、選舉ニ付

テハ從來ノ弊ヲ去ル爲ニ嚴重ニ取締レ、斯
ウ御命令ニナツタ、洵ニ結構ダト思フ、所ガ
嚴重ニ取締ルト云フコトヲ、ドウ云フ調子
カ司法官會同デ御話ニナツタノガ變ッテ來
テ、各控訴院管内ニ於テハ、控訴院長ハ刑事
部長ヲ集メテ嚴重々々ヲ喧シク言ハレテ、
嚴重ニ取締ルガ嚴重ニ變ッテ來タ、一時稀ニ
見ル苛酷ナ刑ヲ以テヤラレテ、色々是ガ問
題ニナツテ來マシテ、近來ニ於テハ緩和サレ
タト云フヤウナ實狀デアル、故ニ此商法ノ
規定デモ、特別ナ明言ヲ何カノ上ニ現ハシ
テ戴キマセヌト、運用ニ當ツテハ大變ナ問題
ガ起ルノデハナカラウカト思ヒマス、例ヘ
バ或ル事柄ヲ滑カニ致シマス爲ニ、一タノ
宴會ヲ催ス、飯ヲ食フ位ハ儀禮的ダカラト
云フノデ、其方ハ濟ムカモ知レマセヌケレ
ドモ、今日ハソンナ非常識デハアリマスマ
イガ、名前ハ差控ヘマスガ、或人ガ檢事時
代ニハ、マムシ一杯僅カ十五錢カ三十錢デ、
是ハ將來ノ便宜ヲ得ル爲メダト云フノデ漬
職デヤラレタ人ガアル、是ハ私ノ知ツテ居ル
又アナタ方モ知ツテ居ル人デスガ、サウ云フ
事例モアル、一タ立派ナ宴會ヲ催セバ、數
百圓ノ金ガ要ル、所ガ商品券ノ二十圓カ三
十圓贈ッテ置ケバ、ソレヨリ安上リダト云
テ贈ッテモ、是ハヤハリ請託關係ダト云フ

デ瀆職ニ處セラレタ實例モ私ハ持ツテ居ル、
飯ヲ食フノハ差支ナイガ、ソレヨリ儉約ス
ルコトガ會社ノ爲ニ利益ダト云ツテヤツタコ
トガ、商品券ヲ取ッタラ何カノ便宜ヲ得ラレ
マスト、改正商法ノ中ニハ、一々法文ハ面
倒ダカラ讀ミマセヌガ、此間カラノ説明デ、
アナタノ方ハ能ク分ツテ居ラレルノデスガ、
可ナリ重イ刑ヲ科セラルトモ言ヘルノデア
リマス、ソレハドウ云レ風ニシテ運用ナサ
ルノデアリマセウカ、之ヲ私ハ伺ヒタイ、
政府ハ大變御都合ノ好イコトヲ考ヘル、例
ヘバ選舉法ノ中デモ、別表ノ改正ハ十年毎
正シナイ、サウシテソレハ頗被リダ、人ヲ
罰スルニ向フニハ非常ニ嚴デアッテ、御都合
ノ好イ時ニハ頗被リシテ行クト云フヤウナ
無條件ニ商法ノ罰則ヲ鶴呑ミニスルコトハ
困リマス、洵ニ今度ノ商法ハ、吾々専門家
ヲシテ、ドウモ餘リ罰則以外ノ所デハ非難
ヲ受ケル機會ヲ少クサレタイト云フコトニ
付テ、丁度候口令ヲ布カレタヤウデアリマ
ス、洵ニ反對センガ爲ニ反對スルト云フ、コ
ダケデハ納得ガ出來ナイ、私ハ此間申上ゲタ
トナラバ兎モ角モ、然ラザル限り中々缺點
ヲ見出スノニ困難ニナツテ居リマスガ、罰則

ノ點ニ於テハ著シク不合理ノ所ガアルヤウ
ニ思フ、重イノモ結構デス、罰金ニ付テハ
モット低イ金額ノ會社ガアルコトモ想像セ
ラレルノデアリマスカラ、之ニ對シ分リ宜
アリマス、固ヨリ不實記載トカ何カト云フ
ト云フ點モ結構デスガ、運用ニ當ツテハ大變
コトハ別テス、其以外ノ法文ノ點デ私ハ申
上ゲルノデアリマス、其點ヲ特ニ後デ併セ
テ御答辯ヲ願ツテ置キマス、ソコデ本論ニ一
ツ入ツテ參リマス、此間御説明ガアツタカ
云フ話デスガ、私居リマセヌデ、若シ話ガ
アツテ重複致シテ居レバ簡單ニ私ノ得心ノ
行クヤウニ御答辯ヲ願ヒマス、商法ノ第四
百八十六條ノ罰則規定デアリマス、所ガ此
規定ト對照サルベキ規定ハ、有限責任會社
法案ノ七十七條ニナツテ居ルト思ノデアリマ
ス、兩者ヲ對照致シマスルノニ、一ハ七年以
下ノ懲役又ハ一万圓以下ノ罰金刑トナリ、
一ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金
刑ニナツテ居ルノデアリマス、株式會社ハ
資本ガ大キノガ原則デアリマス、大體ニ於テ
ス

○松阪政府委員 先づ最初ニ御述べニナリ
マシタ儀禮的ノ饗應ノ場合、本法ノ四百九
十三條及ビ四百九十四條ニハ、職務ニ關シ
不正ノ請託ヲ受ケ財產上ノ利益ヲ收受シ要
求シ、又ハ約束シタル時ハ之ヲ犯罪ト見テ
金ノ限度ガ決マリ、七人ノ重役ガアツタラ
宜イト云フコトデアレバ、有限責任會社ヨリ、
モット低イ金額ノ會社ガアルコトモ想像セ
ラレルノデアリマスカラ、之ニ對シ分リ宜
アリマス、國民ガ得心ノ行クヤウナ御説明ヲ、特
ニ此機會ニ御願シテ置キタイト思ヒマス、
ソレカラ商法ノ四百八十九條デアリマス、
是ハ有限會社法案ノ七十八條ニ稍、該當スル
ト思フノデアリマス、而シテ商法ノ方ニ於
テ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金
トナリ、一ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以
下ノ罰金トナツテ居ルノデアリマス、而モ法
律第四百九十條ニ依レバ、五年以下ノ懲
役又ハ五千圓以下ノ罰金トナツテ居リ、而
シテ日本產金振興株式會社法案ニ依レバ、
百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ストナツテ
居リマシテ、コチラハ過チ料ニナツテ居リ
マス、餘リ澤山舉ゲルトヤ、コシケレバ、
此位デ止メテ置キマス、後デ順次申上ゲマ
ス

居リマスガ、固ヨリ只今御述ベニナリマシタ通り、儀禮的ノ利益ノ供與ハ之ハ犯罪トハ見ナイコトハ、刑法ノ賄賂罪ニ於ケル判例等ニ於テモ屢明示シテ居リマスシ、刑法總則ノ如キ法ガアリマス關係上、禮儀的ノ饗應等ガ本條ノ謂フ罪ニナラヌコトハ、議論ガナイト思ヒマス、唯ドノ程度ヲ以テ儀禮的ト見ルカハ、是ハ相當難カシイ場合モアリマスガ、是ハ社會常識、社會通念ニ依リマシテ、各場合ヲ判断スル外ハナインデアリマスガ、同ジク利益ヲ受ケ、饗應ヲ受ケマスニシマシテモ、會社ノ重役タル人ノ個人的、社會的地位、社會的境遇其他カラ、相當程度ノ高イ御馳走デモ、ソレヲ以テ向儀禮的ト見テ差支ナイ場合モアルノデアリマス、隨テ實際問題トシテハ、是ハ最後ハ裁判所ノ認定ニ俟ツ外ハナイノデアリマス、普通饗應等ナラバ是ハ大抵儀禮的ト見ルノガ普通ノ見方デアリマスルシ、其點ニ付テハ御心配ハナカラウカト考ヘマス、唯御述ニナリマシタ通りニ、現行法カラ見ルト本法案ハ刑罰ガ非常ニ過重デアリマス、又新規ノ規定モゴザイマスノデ、ソレノ運用ニ付テハ餘程注意シナケレバナラスト云フ御注意ハ、洵ニ是ハ御尤ト存ズルノデアリマス、私共モ此法ノ運用ニ當リマシテハ

餘程注意ヲシナケレバナラヌ、最モ妥當ナル取扱ナリ、又妥當ナル解釋ヲ致シ、非難ヲ受ケナイヤウニシナケレバナラスト云フコトハ、痛感シテ居ルノデアリマス、實施實務家ノ會合等ヲ催シマシテ、ソレ等ニ付テノ適切ナル指示ヲ與ヘ、協議ヲ致シテ、只今御述ニナリマシタヤウニ、其運用ニ付テハ十分ニ注意致シマシテ、御趣旨ノアル所モ尊重致シ、萬全ヲ期シタイト思フノデアリマス、其次ニハ各箇條ニ付キマシテ、御趣旨ノアルテ御意見ヲ承リマシタガ、第一ニ御述ニナリマシタ本法案ノ四百八十六條ノ特別背任罪ト、有限會社法ニアリマスル、七十七條ノ特別背任罪トノ間ニ、刑ガ若干相違ガアル、有限會社ノ方ガ刑期ガ少シ輕クナッテ居ル、此理由ハドウダト云フ、御尋デアリマシタガ、先刻モ申シマス通り、株式會社ハ其會社ノ組織、機構ニ於キマシテ、今日デハ大企業組織ニナリマシテ、多數ノ株主、多數ノ社債權者等モアル場合ガ多々アリマスルシ、一般公衆ニ及ボス影響モ非常ニ大キイノデアリマス、有限會社ニ付テ言ヒマス、ト、其有限會社ノ性質カラ申シマシテモ、有限會社債ノ募集ニ當ツテ不實ノ記載アル文書デアル點ハ株式會社ニハ非常ニ似テ居リマス

ガ、株式會社ト合名會社トノ中間ニアル會社デアリマス、株式會社ノ如ク株主ノ範圍ハ廣クハナイ、社員ノ範圍モ廣クナインデアリマス、本法案ニ依レバ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金トナッテ居リマス、サウシスルニ當リマシテハ、何レ全國ノ檢事局ノ又社債ノ發行ト云フコトモ認ヌテ居リマセヨリハ程度ガ低クナッテ居リマス、隨テ之ヲ株式會社ノ重役ト同一ノ程度ノ刑罰ヲ以テ臨ムト云フコトハ、是ハ甚ダ酷ニ失シハセヌカト云フ所カラ、有限會社ノ方ハ幾分刑罰ガ輕クナリ、又合名會社ニ付テハ先程モ申上げマシタ如ク、重役ニ付テハ刑罰ハ設ケテ居ラヌノデアリマスガ、其合名會社ト株式會社トノ中間ヲ狙ヒマシテ、幾分刑ヲ輕クシテ、七十七條等ノ規定ヲ設ケタ次第デゴザイマス、又本法案ノ四百八十九條ノ規定、ソレカラ有限會社法案ノ七十八條トノ刑罰ノ比較ニ付テモ、御質問ヲ受ケマシタガ、刑罰ハ有限會社法案ノ七十八條ノ方ガ幾分輕くナッテ居リマス、其輕クナッタ趣旨モ、是亦規定ノ實質ハ同ジデアリマスルガ、刑罰ハ有限會社法案ノ八十二條ノ規定、下ノ徵役、又ハ三千圓以下ノ罰金トナッテ居ツテ、兩方ノ間ニ區別ハ設ケテアリマシバ、商法ノ四百九十三條ノ規定、及ビ有限會社法案ノ八十一條ノ規定、何レモ三年以降ヒマスガ、此點ヲ御説明願フト共ニ、若シサウ云フ説明ガ許サレルト致シマスナラ思ヒマスガ、此點ヲ御説明願フト共ニ、若シ設ケタト云フコトデ逃ゲラレルグラウトリマス、是ハ金額ガ違テ居リマスガ此點ハ先程ノ御説明カラ行クト、兩者ノ間ニ區別リマス、是ハ金額ガ違テ居リマスガ此點ハ下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金トナッテ居リマス、是ハ金額ガ違テ居リマスガ此點ハ五千圓以下ノ罰金トナッテ居リマス、是ハ金額ガ違テ居リマスガ此點ハ

○内藤委員 其點ハ宜シウゴザイマス、次ニ商法ノ四百九十一條ノ預合ノ規定デアリマス、本法案ニ依レバ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金トナッテ居リマス、サウシスルニ當リマシテハ、何レ全國ノ檢事局ノ又社債ノ發行ト云フコトモ認ヌテ居リマセヨリハ程度ガ低クナッテ居リマス、隨テ之ヲ株式會社ニ付テハ先程御述ニナッタ趣旨ヨリシテ重テ行使シタ場合ノ罰則、是ト日本產金法

シテ臨ンデ居ラレルト云フコトハ、説明ガ
喰達ツテ來ルノデハナイカ、モット外ニ説明
ノ仕方ガアレバ承リタイト思ヒマス、唯今
ノハ一例ヲ示シタノデアリマス、ソレカラ
先程政府委員ノ御答辯ニ、社會的儀禮ト云
フコトガアリマシタガ、アナタ方ノ社會的
儀禮ト云フノハ、ドウ云フ意味デアリマス
カ、現今ノ裁判官ノ頭ハ餘程違ツテ居ルト
思フ、私ハ貧乏ハシテ居ルケレドモ、千圓、
二千圓ノ金ハ眼中ニ置イテナイ、所ガ私共
證人ニ出テ行ツテ、三千圓ト言フト、眼ノ球ガ
飛ビ出ル程ビックリナサル、私ハ三千圓位ノ
金ガ何デスカト言ツテ笑ツタノデスガ、ソレ
ダケ頭ガ違ツテ居ル、モノニ依レバ非常ニ頭
ガ違ツテ居ル、此頃會社ノ顧問ヲシテ居ル
偉イ方ハ、晝飯ヲ食フノニ困ル、一體五十
錢ガ儀禮カ、三十五錢ガ儀禮カ、或ハ一圓
ノ辨當デモ差支ナイノカ、ダカラ是ハ官等、
ナツタ時ニ、宿賃ヲコチラノ方デ、大シタコ
トデハナイカラト言ツテ拂テ置クト、濱職デ
ヤラレル、統計ヲ取ツテ御覽ナサイ、隨分ヒ
ドイノガアル、是等ノ方ハ御馳走ヲスル積
リデハナイガ、マア～コチラデ拂ツテ置キ
マストヤルト、怪シカラヌト云フコトニナ

ル、一體儀禮ト云フノハ、檢事ノ頭次第ニ依ツテハ、大變ナ問題ニナル、是ハ儀禮デナイ、コチラハ儀禮ダト云フコトデ、最近世間ニハ不正ノ請託ナクシテ罪ニ行ク者ヘ澤山アリマス、私共ハ此點ヲ非常ニ憂慮致シマス、此法案ヲ通サウツルナラバ、私共ハ此儀禮ト云フ意味ヲ、ハッキリシテ戴キタイト思フ、サウシテ之ヲ本會議ノ速記録ニ載セテ置カナケレバナラヌ、委員會ノ速記録ヲ見ル人ハ少イノデス、本會議ノ速記録ハ日本全國ノ人ガ皆見マスカラ、大臣ヲシテ明言サセテ置カナケレバナラヌ、幸ヒ松サンモ居ラレルカラ、一松サンカラモ御質問ガアルト思ヒマスガ、時ニ依レバ三十錢ノ辨當デモ漬職ニナルコトガ昔ハイタ、今日三十錢位ト松阪サンハ仰シヤルケレドモ、時代ニ依ツテ違フノデス、時代ニ依テ罪ニナツタリ、罪ニナラナイト云フコトデスカラ、其點ヲ此際政府委員カラシッカリ言明シテ戴クト共ニ、委員長ニモヨク聴イト云フコトハ分ツテ居リマスガ、一體ドノ程サセナケレバ、私ハ承知出來マセス、請託度マデヲ請託ト認メルカ、ドノ程度マデヲ

儀禮ト詔メルカ、餽飪一杯ナラ宜イグラウ、五十錢ノ辨當デハモウイカヌ、是ガ人ニ依ヅテ違フ、ソンナコトデハ危ナクテ日本全國ノ商業家ガ困ル、アナタ方ハ會社ゴロ退治スル爲ニ汲々トシテ、新シイ法律ヲ拵ヘラレル、是ハ私ハ洵ニ結構ダト思フ、所ガ會社ゴロト云フノハ、ドウモ定義ガハッキリシナイ、株主ヲシテ株主權ヲ行使セシメ、議事ノ進行ヲ圖リ——サウシテ昔ノ會社ゴロハ嘸シテ金ヲ取ッタ、今日ノ會社ゴロハ嘸メテ金ヲ取ル、是ハ洵ニ結構ナ案ダトカ、ドウゾ各位ノ御贊成アランコトヲ望ム、嘸メテ金ヲ取ル、昔ハ嘸シテ金ヲ取ル、嘸スノハ脅迫ダカラ勿論取締ル、人ヲ嘸メテ金ヲ嘸テモ罪ニナル、今日ノ御取締ノ方針ハサウナッテ居リマス、人ヲ嘸メテモ、ソレニ依ツテ金ヲ取ッテハイケナイ、人ヲ嘸メテ金ヲ嘸ツテ宜イノハ、或ル接客業者ダケデスマヨ、サウ云フ譯デアリマスカラ、會社ゴロノ定義ヲ私ハ聞イテ置キタイ、マア私ハヤリマセヌガ、私共株ヲ持ツコトモアリマセヌ、若シ株ヲ持ツテ居シテ、顧問カ何カデサウ云フコトヲヤレバ、私ハフン縛ラレテシマフ、怖クテ仕方ガナイ、デスカラ此法規ノ狙ヒ所、ドノ程度ヲ會社ゴロト見テ居ルカ、或ハ先程申上ダタ請託ト云フノハ、ド

○松阪政府

ノ程度マデヲ請託ト見テ、ドノ程度マデヲ
テ戴キタイ、一圓ノ辨當ハ宜シイガ、三圓
ノ辨當ヂヤイケナイ、三圓迄ハ宜イケレド
モ、五圓デハイケナイ、恐ラクアナタ方ハ
金デ來ルダラウト思ヒマスカラ、アナタ方
ノ狙ヒ處、標準ヲ政府委員トシテ御示シヲ
願ヒタイ、是ハ日本全國ニ知ラシメル必要
ガアリマス、アナタノ方デ宣傳サレルト言
ヒマスケレドモ、宣傳ガ利カナイ時ハドウ
ナル、大變ナ問題ガ起リマスカラ、此處デ
標準ヲハッキリシテ戴キタイ、ムヅカシカツ
タラ原稿ヲ持ヘテ戴イテ、朗讀デモ結構デ
アリマス

○松阪政府委員 先ヅ第一ニ御尋ニナリマ
シタ本法案ノ四百九十一條ノ預合行爲ノ處
罰ノ罰則ト、有限會社ノ七十九條ノ預合ノ
行爲ノ處罰ノ罰則トニ重イ輕イガアル、其
區別ノ理由ハドウカト云フ御尋デアリマシ
タガ、如何ニモ左様ナ區別ガアリマスルガ、
ソレハ先程申シマシタ通り、株式會社、株
式合資會社ト有限會社トノ性質上ノ差異カ
ニ然ラバ本法案ノ四百九十三條ノ財產上ノ
不正利得罪ト有限會社ノ八十一條トハ、是

四百九十四條ト有限會社ノ八十二條、權利行使ニ關スル財產上ノ不正ノ利益ノ取得、是亦刑罰ニ變リハナイデヤナイカト云フ御尋デアリマシタ、如何ニモ是ハ其通リデアリマス、極メテ嚴密ニ申シマスルト、會社ノ性質カラ、先般來申述ベマシタ通リノ理論カラ致シマスルナラバ、是亦若干刑期或ハ金額ヲ引下ゲルノガ至當デアルト云フ意見モナイデハナイノデアリマスルガ、只今マデ述べマシタ有限會社ノ方ヲ輕ク致シマシタ、罪ハ何レモ大體會社法案ニ於キマシテハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ト云フ此較の重イ罪ニナツテ居リマスノデ、如何ニモ刑ガ重イノデアリマスルカラ、之ヲ少シク下ゲル必要ガアル、然ルニ四百九十三條、四百九十四條ニ至リマスト、前著ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金、後者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金デアリマス、刑ガ稍^シ輕クナツテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ更ニ引下ゲルト云フノデ、商リニ輕キニ過ギヤシナイカト云フノデ、商法ノ罰則ト大體同額ニ致シタノデアリマス、トオ叱リヲ受ケルカモ知レマセヌガ、多少理論ガ貫カヌ點ガアルカモ知レマセヌガ、今申ス通り、刑ガ是ダケ輕イノデアリマス

カラ、之ヲ更ニ輕クスルト云フノハ如何カ
ト思ヒマシテ、同法案ヲ同一ニ致シタ次第
デゴザイマス、ソレカラ第二ニ御尋ニナリ
マシタ財產上ノ利益ニハ、社會的儀禮タル
饗應ヲ含マレテハ困ルカラ、其標準ヲ示セ、
ソレヲ明ニシテ置カナケレバナラスト云フ
御尋デアリマスルガ、政府ト致シマシテモ
標準ヲ明確ニ示セルナラバ示シタイノデア
リマスルガ、御承知ノ通リ社會的儀禮デア
リマスルカラドウシテモ其人個人々々ニ付
テノ社會的地位、境遇、財產、社會生活等
ヲ標準ニ致サナケレバナリマセヌノデ、十
圓迄ノ御馳走ハ社會的儀禮デ、ソレ以上超
シタナラバ賄賂ダト云フ風ニ金額ヲ以テ區
別スルト云フ譯ニハ參リマセヌ、ドウシテ
モ人ニ依ヅテ違フノデアリマシテ、賄賂罪ニ
付テ申シマスナラバ、極メテ下級ノ官吏ガ
一晩數十圓ニ值スル、或ヘ數百圓ニ值スルヤ
ウナ饗應ヲ受ケルナラバ、是ハ社會的儀禮
ト見得ナイノデアリマスルガ、比較的高位
高官ニ在ル官吏アルトカ、或ハ會社デ申
シマスレバ、或ル大キナ會社ノ重役ナドガ
ト當然言ハナケレバナラヌノデアリマス、
一晩數十金ヲ投ジテモ、ソンナコトハ少シ
モ問題ニナラヌノデアリマス、社會的儀禮

○内藤委員

ヨト云フ趣旨ニ下ニ、ソレニ依ツテ專ラ生活シテ居ル人間ガ、通常會社ゴロト謂ハレルヤウデアリマスガ、會社ゴロト言ハレル者ノ本體ハ、本人ノ生活ナリ、環境ナリ、經歷ナリ、活動ノ模様ヲ調ベレバ、自ラ裁判所モ檢事局ニモ明確ニナリ得ルト存ズルノデアリマス、彼等ハ要スルニ株主ト云フノハ名バカリデ、權利ノ濫用ニ依ツテ不當ノ利益ヲ得ルノガ、其本體デアラウト存ジテ居ルノデアリマス、又本法ハ左様ナ者ヲ取締ラウト云フ趣旨ニ依ツテ、立法シタ次第ゴザイ

ニ私ガ偉イ者ト致シマスト、私ガ遊びタ
カシテ置ク、片方ハソレダカラ有難クナ
イ、問題ニナルト其金額ヲ、一人デスト二
一天作ノ五、三人ダト三進ノ一進デヤル、
ソレデハ社會的儀禮ニ反スル、ソコデ社會
的儀禮ノ饗應ト云フ事柄ハ何ヲ主觀的ニ見
ルカ、無論ソコニ婦人ヲ關係サセタリスル、
ソレハ面白クナイ、ソンナコトヲ尋ネルノ
デハナイ、私ノ言フノハ出シタ金デナク、
其機會ヲ利用シテヤル人ガ、日本全國ノ偉
イ方ニ澤山アル、相手方ハ迷惑スル、偶
行ツタ所ハ、サウ云フ積リデ行ツタノデヤナ
イ、晚飯ヲ御馳走ニナル積リデ行ツタ所ガ、
其處ニハ美人ガ澤山來テ居ル、良イ加減ノ
高イ御馳走デアル、出ルニ出ラレズト云フ
ヤウナコトデ、思ハズ是ガ罪ニナルト云フ
場合ハ、氣ノ毒デヤアリマセヌカ、其立場カ
ラ、私ノ言フノハ社會チノ立場チヤナクシテ
ノデ、アナタニ特ニ定義ヲ煩シタイ、斯ウ
其人ノ立場カラ、即チ收賄者側ノ立場カラ
見テ、氣ノ毒ナ場合ガアリ得ルト思ヒマス
云フコトヲ申上ゲタ、ダカラアナタノ方ノ
御答辯トシテハ、ソレハ何ノ主觀ニ依ッテ御
決メニナルカト云フアナタ方ノ御方針ヲ承

カラ第二ニ御答辯ニナリマシタ會社ゴロノ定義デスガ、是ハ私共ノ頭腦ニハピント來テ居リマス、檢事局デハ御分リニナラヌカモ知レマセヌガ、併ナガラ此問題ハ、各地方トモ警察部ガ能ク知ヅテ居ルノデス、ソコデ時々周期的ニ總會ノアル前後ニ網ヲ張ツテ、會社ノ門前ヘ行ツテ刑事ガ捉ヘテ檢事局へ報告スル、是ガアナタモ御承知ノ通リデセウガ實情デス、是ハ御互ニ頭腦デ判斷ガ出來マスケレドモ、此法案カラ見マスト、此金ヲ出スト云フコトハ、要求ヲ爲シ云々ト云フコトガアルノデスガ、是ハ會社ノ金ヲ使フ場合ニ罰セラレルノカ、將又重役ガ自分ノ小遣ヲ出シテ、會社ニハ何モ迷惑ヲ掛けテ居ラヌ、斯ウ云フ場合ニデモ之ヲ罰スルト云フ意味デアリマスカ、其點ヲモウ一遍伺ヒタイト思ヒマス

ス、只今御述べニナリマシタヤウニ、其機會ヲ利用シテ、自分カラ遊興シテ居ル場合、是ハ社會通念カラ申シマシテモ、ソレヲ饗應ニ名ヲ藉リタ自己ノ遊興ト見ルノデアリマス、是ハ社會的儀禮ニサヘ至ルカ至ラヌカヲ疑フノデアリマス、寧ロソレハ重役自身ガ交際ニ名ヲ藉リテ、自ラ遊興シテ居ルノデアッテ、決シテ饗應シタトハ言ヘナイノデアリマス、又サウ云フ場合ニ饗應ニ與ル人間モ、憤慨コソスレ餘り好イ氣持ヘシナインデアリマス、實情ニ於テ左様デアリマスカラ、左様ナ場合ニハ固ヨリソレヲ寧ロ饗應ト見ルノガ妥當ヲ缺イテ居リハシナイカト思フ、假ニ饗應ト見ルトシテモ、極メテ輕微ナルモノデアリマシテ、其金額ヲ平分シテ、本人ガ饗應ヲ受ケタ額ダト云フノハ、是ハ當ラスト思ヒマス、固ヨリ是ハ判事ノ主觀ニ依ツテ決メルノデナクシテ、社會的儀禮ナリヤ否ヤト云フコトハ、其當時ノ社會的ノ其人ノ地位、境遇、身分、財產其場合ノ饗應ノ性質、内容等ヲ審査致シマシテ、客觀的ニ決メルベキモノダト私ハ考ヘマス、ソレカラ會社ゴロニ對スル利益ノ供與デアリマスガ、重役個人ガ自分ノ「ボケットマネー」ヲ出シテ相手ニ供與シタ場合

ト、會社ノ金デヤッタ場合ト、相違ガアルカ
否カト云フコトデアリマスガ、四百九十四
條ニ依リマスレバ、固ヨリ會社デ金ヲヤッタ
場合ニ限ラナイノデアリマスルカラ、重役
個人ガ左様ナコトヲ自分ノ金デヤリマシテ
モ、ヤハリ四百九十四條ノ犯罪ハ成立スル
モノト考ヘマス

即チ同法ノ十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反

シ云々ト云フ規定デス、サウ云フヤウナ場

合ハ千圓以下ノ罰金デアリマス、一々申上

ゲルト數限リモアリマセヌガ、要スルニ或

ル場所ニ於テハ過料ヲ徵收シタリ、或ル場

所ニ於テハ罰金刑ヲ徵收シタリ、要スルニ或

ルト、株式又ハ社債ノ募集ニ當リ虚偽ノ文

書ヲ行使シ或ハ株式社債ノ賣出ヲ爲ス際ニ

ナッテ居リマス、其犯罪ノ性質カラ申シマス

デアリマシテ、商法法規ハ馬鹿ニ重クナッテ

居ルノデアリマスガ、是ハ御話ニ依ルト々

御相談ヲ受ケラレタト云フコトデアリマ

スガ、特殊會社デアレバ罰則ニ付テモ特別

ノ御庇護ヲ受ケル、特殊會社デナケレバ重

クヤラレルト云フ事柄ハ、私如何ガナモノ

デアラウカト思ヒマス、特殊會社コソ重ク

罰シ、民間普通ニ行ハレマスル從來ノ文書

ニ不實ヲ記スルトカ何トカ云フコトデ、正

確ヲ期スル場合ハ重ク罰シ、然ラザル場合

ハモウ少シ何トカ考ヘテヤツタ方ガ、今日生

産擴充ダトカ、流行言葉デ色々政府モ產業

ノ獎勵ヲサレテ居ルノデスガ、餘リ罰則バ

カリヲ重クシテ臨ムト云フ事柄ハ、却テ產

業ハ萎靡スルト云フ結果ヲ來タスノデハナ

カラウカト思ヒマスノデ、此點ヲ一つ伺フ

ノデアリマス、當時相談ヲ受ケタト仰シヤ

ルノデスカラ、他ノ特殊會社ノ法規ハ皆御

存ジト思ヒマスノデ、持ツテ居リマスケレド

モ一々申シマセヌガ、アナタノ方デ其點ニ

對スル御答辯ヲ願ヒマス

○松阪政府委員 第四百九十條ハ五年以下

ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ト云フコトニ

ナッテ居リマス、其犯罪ノ性質カラ申シマス

ルト、株式又ハ社債ノ募集ニ當リ虚偽ノ文

書ヲ行使シ或ハ株式社債ノ賣出ヲ爲ス際ニ

ナッテ居リマス、其犯罪ノ性質カラ申シマス

デアリマシテ、商法法規ハ馬鹿ニ重クナッテ

居ルノデアリマスガ、是ハ御話ニ依ルト々

御相談ヲ受ケラレタト云フコトデアリマ

スガ、特殊會社デアレバ罰則ニ付テモ特別

ノ御庇護ヲ受ケル、特殊會社デナケレバ重

クヤラレルト云フ事柄ハ、私如何ガナモノ

デアラウカト思ヒマス、特殊會社コソ重ク

罰シ、民間普通ニ行ハレマスル從來ノ文書

ニ不實ヲ記スルトカ何トカ云フコトデ、正

確ヲ期スル場合ハ重ク罰シ、然ラザル場合

ハモウ少シ何トカ考ヘテヤツタ方ガ、今日生

産擴充ダトカ、流行言葉デ色々政府モ產業

ノ獎勵ヲサレテ居ルノデスガ、餘リ罰則バ

カリヲ重クシテ臨ムト云フ事柄ハ、却テ產

業ハ萎靡スルト云フ結果ヲ來タスノデハナ

カラウカト思ヒマスノデ、此點ヲ一つ伺フ

ノデアリマス、當時相談ヲ受ケタト仰シヤ

ルノデスカラ、他ノ特殊會社ノ法規ハ皆御

存ジト思ヒマスノデ、持ツテ居リマスケレド

モ一々申シマセヌガ、アナタノ方デ其點ニ

デアリマス、其他二號三號何レモ本法ノ四

百九十條ニ比シマシテハ極メテ輕イノデア

リマシテ、或ハ此電氣會社ハモウ潰レルカ

モ知レナイト云フノデ、其株券ガ非常ニ下ッ

タノデアリマス、其株券ノ下ッタノヲ機會

ニ、或ル大株主ガ之ヲ買占メテ、サウシテ

會社乗取ニ掛ッタ、所ガ後デハ其運動ガナク

ナッテシマッテ、潰レルドコロデハナイ、非

常ニ盛ニナリマシタ、會社ガ潰レルダラウ

ト云フノデ株ハ非常ニ暴落シタ、其暴落シ

タ時ニウント買占メテ、今日デハ暴落モシ

ナケレバ、會社ハ隆々トシテ經營シテ居ル、

シマスレバ、場合ガ違ヒマスノデ、刑モ亦

ニナッテ居リマシテ、是亦事案ノ性質カラ申

自ラ異ル譯デアリマス

○仲井間委員 關聯シテ御伺致シマス、四

機製造會社ニ對シテ業務財産ノ狀況ニ關

シテ報告ヲ爲サシムルコトガ出來ルコトニ

ナッテ居ル、此命令ヲ致シマシタル場合ニ、

一號ハ同法第十五條ニ違反スル場合デアリ

マス、第十五條ニ於キマシテハ政府ハ航空

機製造會社ニ對シテ業務財產ノ狀況ニ關

ハモウ少シ何トカ考ヘテヤツタ方ガ、今日生

産擴充ダトカ、流行言葉デ色々政府モ產業

ノ獎勵ヲサレテ居ルノデスガ、餘リ罰則バ

カリヲ重クシテ臨ムト云フ事柄ハ、却テ產

業ハ萎靡スルト云フ結果ヲ來タスノデハナ

カラウカト思ヒマスノデ、此點ヲ一つ伺フ

ノデアリマス、當時相談ヲ受ケタト仰シヤ

ルノデスカラ、他ノ特殊會社ノ法規ハ皆御

存ジト思ヒマスノデ、持ツテ居リマスケレド

モ一々申シマセヌガ、アナタノ方デ其點ニ

アリマス、ソレガ爲ニ非常ニ電氣會社ハ困

リマシテ、或ハ此電氣會社ハモウ潰レルカ

モ知レナイト云フノデ、其株券ガ非常ニ下ッ

タノデアリマス、其株券ノ下ッタノヲ機會

ニ、或ル大株主ガ之ヲ買占メテ、サウシテ

會社乗取ニ掛ッタ、所ガ後デハ其運動ガナク

ナッテシマッテ、潰レルドコロデハナイ、非

常ニ盛ニナリマシタ、會社ガ潰レルダラウ

ト云フノデ株ハ非常ニ暴落シタ、其暴落シ

タ時ニウント買占メテ、今日デハ暴落モシ

ナケレバ、會社ハ隆々トシテ經營シテ居ル、

シマスレバ、場合ガ違ヒマスノデ、刑モ亦

ニナッテ居リマシテ、是亦事案ノ性質カラ申

自ラ異ル譯デアリマス

○仲井間委員 關聯シテ御伺致シマス、四

百八十八條ト會社ゴロトノ關係デアリマス

ナッテ居ル、此命令ヲ致シマシタル場合ニ、

一號ハ同法第十五條ニ違反スル場合デアリ

マス、第十五條ニ於キマシテハ政府ハ航空

機製造會社ニ對シテ業務財產ノ狀況ニ關

ハモウ少シ何トカ考ヘテヤツタ方ガ、今日生

産擴充ダトカ、流行言葉デ色々政府モ產業

ノ獎勵ヲサレテ居ルノデスガ、餘リ罰則バ

カリヲ重クシテ臨ムト云フ事柄ハ、却テ產

業ハ萎靡スルト云フ結果ヲ來タスノデハナ

カラウカト思ヒマスノデ、此點ヲ一つ伺フ

ノデアリマス、當時相談ヲ受ケタト仰シヤ

ルノデスカラ、他ノ特殊會社ノ法規ハ皆御

存ジト思ヒマスノデ、持ツテ居リマスケレド

モ一々申シマセヌガ、アナタノ方デ其點ニ

ベキデアラウカト云フ點ヲ伺ヒタイト思ヒ
マス

○松阪政府委員 只今會社ゴロニ付テノ御

尋デアリマシタガ、左様ナ場合ニハ固ヨリ
四百八十六條ニハ當リマセヌノデ、四百八
十六條ノ法文ニ示シマス如ク、其電燈會社
ナラ電燈會社ノ取締役自身ガ自分ノ利益ヲ
圖リ、或ハ會社ヲ害スル目的デ會社財產ニ
損害ヲ加ヘタ背任行爲ヲ處罰スルノデアリ
マスカラ、其會社以外ノ人ガ左様ナ策動ヲ
致シタト致シマシテモ、四百八十六條デ取
締ル譯ニハ參ラヌノデアリマス、又一般會
社ゴロヲ取締ラウト云フコトヲ狙ッテ居ル
四百九十四條ニモ當ラナイノデアリマス、
四百九十四條ハ三ツノ場合ヲ掲ゲテ居リマ
シテ、創立總會、株主總會、社債權者集會
又ハ債權者集會ニ於ケル發言、又ハ議決權
ノ行使ニ關シマシテ不正ノ請託ヲ受ケテ、
財產上ノ利益ヲ得タ場合デナケレバ、罰シ
ナイノデアリマスカラ、今ノ場合ハサウ云
フ場合デモナケレバ、又四百九十四條ノ第
二號第三號ニ當ル場合デモナイヤウニ存ズ
ルノデアリマス、隨テ或ル第三者ガ電氣會社
ヲ乗取ルト云フ考ノ下ニ左様ナコトヲ致シ
マスレバ、若シ其ヤッタ行爲ガ僞計ヲ用ヒ
ルトカ、或ハ虛偽ノ風説ヲ流布スルトカ、

僞計ノ手段ヲ用ヒテヤリマシタ場合ニハ、
刑法ノ業務妨害トナリ、或ハ信用ノ毀損ト

ナリ、左様ナ犯罪ヲ構成スル場合モアラウ
ト思ヒマスガ、何等サウ云フ僞計ナリ何ナ
リヲ致サナイトスレバ、是ハドウモ取締ル
方法ガナイト云フコトニナルノデアリマス

○仲井間委員 私ガ今御聽キシマシタ假想
的例デアリマスガ、ソレハ取締役ト第三者
ガ通ジマシテ、或ル取締役ガ株券ヲ買占メ
ヨウト云フ計畫カラ出タモノニアリマシテ、
第三者ガ新聞記事ヲ書イタリ色々ナコトヲ
シテ、ソレガ爲ニ株ガ暴落シタ、其暴落ニ
乘ジテ買占メテ社長ニナル、所ガ株ハ一時
ハ暴落シタケレドモ、又回復シタ、成程會
社ニ損害ヲ加ヘタ場合ニハ背任ニナルガ、
一時株主ハ損害ヲシテモ、實際ハ損害ガナ
イ、サウ云フヤウナ場合ニ株式ヲ保護スル
ト云フコトト、會社ヲ保護スルト云フコト
トハ、觀念ハ別デアリマシテモ、實際ニ於
テハ同一デアリマス、之ヲ何トカサウ云フ
ノ場合ニ於キマシテハ、株式ノ暴落スルト
トガ、外ノ方面ヲ保護スルト云フ均衡上、
少し手落デハナカツタカト云フヤウナ感じ
シ、損害ヲ受ケルト云フコトハ、通常言ヒ
ス、一概ニ論ゼラレマセヌガ、現實ニ多ク
ノ場合ニ於キマシテハ、株式ノ暴落スルト
ト云フコトハ、會社ガ取引上非常ナ支障ヲ來
ガアリマス、斯ウ云フヤウナ會社其他ヲ保
護スル規定ヲ置イタ均衡上、サウ云フヤウ
ナ種類ノ場合モ、相當ニ取締ルベキ制度

ガ欲シカツタノデアリマス、若シナケレバ仕
方ガアリマセヌガ、何トカサウ云フ方面ヲ
タナラバ、是ハ四百八十六條デ取締ルコト

御考ニナラナカツタノデアルカ、サウ云フコトハ實
ナラナカツタノデアルカ、サウ云フコトハ實
際ニ於テ起リ得ルコトト思ヒマス

○仲井間委員 諱イヤウデアリマスルガ、
會社ニ實害ヲ生ゼシメズシテ、唯株式ノミ
ガ暴落シタ、今指摘シマシタル手段ニ依ツテ、

株式ノ暴落ヲ圖ツタト云フ其行爲ヲ、他ノ罰

則ニ規定シテアル所ノ行爲トノ均衡上、此

方面モ取締ル必要ガアルノデハナイカト云

フコトヲ、私ハ聽イテ居ル、苟モ會社ヲ保

護スルコトハ、株式ノ保護モ必要デアリマ

スガ、サウ云フ不當ニ株式ノ暴落ヲ圖ル手

段ヲ執ッテ居ル者ニ對スル取締ト云フモノ

ハ、一般法、他ノ刑法ノミデナクシテ――

此法ノ罰則ハドツカト云フト、一般法ヨリ

モ重イ結果ニナルノデハナイカト云フ風ニ

見ラレテ居ルノデアリマスガ、均衡上此罰

則ノ中ニ入レテ然ルベキモノノデアルト思フ

ノデアリマス

○松阪政府委員 單ニ株式ノ暴落ヲ、何等

カノ不正手段デ圖ルト云フコトニナリマス

ルナラバ、是ハ商法上ノ罰則ニ加ヘルヨリ

モ刑法其他ノ別ノ法律ニ規定シタ方ガ、妥

當デナイカト考ヘルノデアリマス、商法ノ罰

則編ニ規定致シテアリマスルノハ、會社ノ

役員或ハ高級使用人、或ハ其會社ノ爲ニ權

利ヲ行使スル者、サウ云フ會社直接ノ關係者ガ、犯罪行爲ヲヤッタ場合ヲ本法ニ於テ取締ラントスルノデアリマス、其以外ハ刑法其他ノ特別法等ニ譲ツタ方ガ、立法手段トシテ妥當デアルト考ヘテ居ル次第アリマス。

○仲井間委員 私ガ申上ガスルノハ、會社ノ重役ガ自分ノ會社ノ株ヲ暴落セシムル手段ヲ執ツタ場合デアリマス、會社ハ直接ノ損害ハ受ケヌガ株ハ暴落シタ……

○松阪政府委員 會社ノ重役ガ自分ノ會社ノ株ヲ暴落サシタト云フ場合ニハ、四百八十六條ノ特別背任罪ニ當ル場合ガ、殆ド大部分デアラウト思ヒマス、現實ニサウ云フ

會社ニ損害ヲ與ヘヨウト云フ意思ガアル、或ハ自己若ク第三者ヲ利スル意圖ノ下ニ、背任の行爲ヲ致シマスルナラバ、四百八十八條ニ依ツテ未遂罪ヲモ罰スルノデアリ

マスカラ、其行爲ガアレバ、現實ニ會社ハ損害ヲ受ケナクテモ罰スルノデアリマスカラ、會社ノ重役ニ對シテハ取締リ得ルト考ヘマス

○内藤委員 會社ノ重役ハ實情ヲ知ツテ居ツテ、此株ハ將來上ルト云フコトモ分ル、デアリマスルカラ儲ケタ場合ハ是ハ實害ヲ與ヘテナイカラ、取締ル必要ハナイカ、此點ニ付テ政府委員ノ御意見ヲ承リタイ、「使用人

自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ會社ヲ害センコトヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ會社ニ財產上ノ損害ヲ加ヘタルトキ」是ハ「又ハ」ダカラ損害ヲ加ヘタ場合モ、自己若ハ第三者ヲ利シ……

之ヲ説明ヲシテ戴キタイ、是ハ私ハッキリ申上げテ置キマスガ、一例ヲ取ツテ言ヘバ、或ル整理會社ガアル、此整理ガ出來レバ、此株ノ五十圓ナラ五十圓ノモノハ將來百二十圓ニナルダラウ、斯ウ云フコトハハッキリ

分ツテ居ル、斯ウ云フヤウナ時ニ儲ケニ掛ツタ場合ニ、之ヲ罰スルノガ四百八十六條ノ規定デアリマスカ、斯ウボンヤリト伺ツテ置キマス

○松阪政府委員 四百八十六條ハ單ニ自分ガ會社ヲ利用シテ儲ケタト云フダケデハ、無論其爲ニ何等ノ制裁ハ受ケナインデアリ

マシテ、自分ヲ利スル爲ニ任務ニ背イタ行爲ガナケレバナラヌ、又ソレガ會社ノ財產上ニ損害ヲ加ヘル行爲デナケレバナラヌノデ

○松阪政府委員 任務ニ背キト云フ言葉ニ付テノ御尋デアリマスガ、任務ニ背クト云フコトハ、取締役ナラ取締役ニ付テ、商法上ニ於テ責任アル事柄ヲ掲ゲテアリマスシ、業務執行其他ニ付テハ、定款ニ規定シテア

リマスカラ、其定款ヲ遵奉シテヤッテ行クベキデアリマスガ、其規定ニ背イテヤルコトガアリマス、又業務ノ執行ヲスル以上ハ、

善良ナル管理者ノ注意ヲ拂ハナケレバナラニ背クト云フコトガ分ラヌ、例ヘバ五十圓

ノモノガ百圓ニナツタ場合ニ、賣買ヲシテモ差支ナインデハナイカト思フガ、近頃ハ檢

事サンガ偉クナツテ、モット儲カルベキモノヲ儲ケナカツタト云フヤウナコトヲ言ツテ、所謂消極的背任罪が認メラレル傾向ガアリ

マス、ソコデ私ハボンヤリ聞イテ見タノデス、任務ニ背クト云フ意味ハ——「自己若ハ

第三者ヲ利シ」ト云フ文字ハ、任務ニ背クト云フコトヲ言ヒタインデスカ、

云フコトガ必要デアル、斯ウ云フ場合ニ任務ニ背クト云フノハ、ドウ云フ意味デスカ、

將來會社ノ株ノ上ルコトヲ見込ンデ處分スル、サウシテ其會社ガ良クナツテ會社ノ信

務ニ背クト云フノハ、ドウ云フ意味デスカ、

ト云フコトヲ聞イタノデス、ソレデナケレバ今ノ大會社ノ重役ト云フモノガ、巨萬ノ

富ヲ積ムコトハ出來ナイ、彼等ハ皆ヤツテ居ル、ソレデ任務ニ背キト云フコトハ、ドウ

場合デモ任務ニ背キト云フノニ引ッ掛けヨウトスレバ、引ッ掛けテ縛ルコトガ出來ル、ソレガ危イカラ私ハ質問ヲシテ居ルノデス

○松阪政府委員 任務ニ背キト云フ言葉ニ付テノ御尋デアリマスガ、任務ニ背クト云

コトバカリ言フガ、私ノ言フノハ不勞所得嫉ムノデハナイ、仲井間君ハ損ヲシタトキノ

思想問題ニ影響シテ、富ノ偏在ニ依ツテ色々ノ社會主義者ガ現ハレテ來ルカラ、兎ニ角會社ノ仕事ヲシテ居ル以上ハ、サウ其會社

ノ株ヲ賣ッタリ買ッタリ爲サラヌヤウニ、此改正商法デ規定シタイ、ソレガ私ノ狙ヒ所デアリマス、サウシテ真ニ完璧ヲ期シタ商法ニシタイト云フノガ眼目デアリマス

○野村委員長 ソレデハ午前ハ是ニテ休憩

致シマス、午後ハ二時カラ開クコトニ致シ
マス

午後零時十一分休憩

午後二時十分開議

○野村委員長 午前ニ引續キ開會致シマ
ス——菊地君

○菊地委員 有限會社ノ全般的ナ質疑ノ時
ニ、私ハ出テ居リマセヌノデ分ラナカッタノ

デアリマスガ、此有限會社ト云フ名前ニ付
キマシテ、御伺シタイノデアリマス、茲ニ
言フ有限ト云フノハ有限責任ト云フコトヲ
表示センガ爲ニ、有限會社ト云フ名前ヲ御
用ヒニナッタノデアリマセウカ、其點ヲ先づ
伺ヒタインデアリマス

○大森政府委員 御説明ノ通リデアリマス、

此會社ハ從來學說上ナリ、又一般ニ有限責
任會社ト言ハレテ居ツタノデアリマス、詰リ
社員ガ總テ有限責任デアルト云フ趣旨カ
ラ、有限責任會社ト言ヒ做ハシテ居ツタノ
デアリマス、儲テ法案ノ名前トシテ之ヲ考
ヘテ見マスルト、會社自身ガ何カ有限責任
ヲ持ツヤウニ見エマシテ、明確ヲ缺ク處モ
アルノデアリマス、又有限責任會社ト云フ
長イ名前ニナリマスト、是カラソレヲ用ヒ
テ行キマスノニ不便ノ點ガナクハナイカト
存ジタ次第デアリマス、尤モ御承知ノ通り

ニ、株式合資會社ト云フ長イ名前ノ會社モ
アリマスケレドモ、是ハ其數ガ少イノデア
リマス、此有限會社ハ將來殖エテ參リマセ
ウカラ、何レニ致シマシテモ便宜ノ方ガ宜
イト考ヘマシテ、旁、左様ナ關係カラ有限會
社ト云フ名前ニ定メタ次第デアリマス
○菊地委員 名前ハドウデモ宜イト云フヤ
ウナコトニ結局ナリマセウケレドモ、併ナ
ガラ有限責任ノ意味ヲ含メテ、ソレヲ短ク
スル爲ニ、有限會社ト云フ名前ヲ付ケタト
スルナラバ、是ハモット御考ヘ願ツタナラバ
ウカ、有限責任ト云ノ言葉ハ一定ノ法律上ノ
熟語トシテ一般ノ人ガ之ヲ認識シ、之ヲ諒
解シテ居ルノデアリマシテ、有限ト云フ言
葉ハ其有限責任ト云フ言葉ヲ短クシタノダ
ト云フ風ニハ、解サレナイト思フノデア
リマス、有限ハ所謂無限ニ對スル言葉デアッ
テ、會社ノ内容ニ對シマシテモ、一體何ガ
カ、是ダケデハ分ラナイ、例ヘバ成立時期
ガ、是ダケデハ分ラナイ、例ヘバ成立時期
ガ有限デアルカ、責任ガ有限デアルトフコト
カ、是ダケデハ分ラナイ、別ニ特ニ監査役ト云
配ヲ致シマシテ、實ハ立案中ニ當業者ニ此
限會社ト云フ名前ハ、初メ聞キマシタ時ニ
ハ、怪訝ナ顔ヲシテ居リマシタガ、其後色々
考ヘテ見マシテ、有限會社ト云フ名前ハ
最初ノ響キハ如何カト思ハレルケレドモ、
モ知レナイ、斯ウ云フコトデ寧ロ當業者ノ
シテ居ルノデアリマシテ、特ニ有限ト云フ

言葉ガ有限會社ノ場合ニダケ、是ハ有限責
任ノ意味ダト云フコトニナリマスト、法律
ノ統一ノ上カラ、體裁ノ上カライケナイン
ニ名案ガナイノデアリマシテ、又只今モ申
述ベマスル通リニ、慣レテシマヘバ左様ニ
不思議ニモ耳ニ響カナイカト存ズルヤウナ
次第デアリマス、右御諒承ヲ願フ次第デア
リマスガ、政府ノ御意見ハ如何デアリマ
セウカ

○大森政府委員 御尤ノ御意見ト存ズルノ
デアリマス、先程申シマシタ通リニ有限責
任會社ト云フ文字自身ガ、必シモ正確デナ
イノデアリマシテ、他ニ然ルベキ名前ガナ
イカト、隨分吾々ト致シマシテハ考ヘタノ
デアリマス、其考慮ノ末ニ有限會社ト云フ
名前ニ落付イタノデアリマスルガ、新シイ
名前デアリマスカラ、將來用ヒ方ニ依ッテ
ハ、ドウ云フ工合ニ響クカ、其點ニ大變心
置イテモ置カナクテモ宜イ、是ハ會社ノ任
意ニナッテ居ルノデアリマスルガ、色々ノ點
デ此監査役ヲ會社ノ任意ニスルト云フコト
デハ、不都合ヲ來スノデハナイカ、斯ウ云
フ考ヲ持ツテ居ルノデアリマスガ、此點ハ如
何デゴザイマセウカ

○大森政府委員 御尤モデハゴザイマスガ、
有限會社ハ其特色ト致シマシテ、互ニ相信
賴スル少數者ノミヲ以テ組織セラレルモノ
デアリマスカラ、若シ此少數者同志ノ間デ
話ガ付キマスナラバ、別ニ特ニ監査役ト云
フ喧マシイ機關ヲ設ケル必要ガナイカト存
ジタ次第デアリマス、ソレデアリマスカラ
ジタ次第デアリマス、御承知ノ通りニ合名
ス、名前自身カラ申シマスルト、必シモ適
當ナル名前ダトハ思ヒマセヌケレドモ、他
ニ名案ガナイノデアリマシテ、又只今モ申
述ベマスル通リニ、慣レテシマヘバ左様ニ
不思議ニモ耳ニ響カナイカト存ズルヤウナ
次第デアリマス、右御諒承ヲ願フ次第デア
リマス

會社、合資會社ニ付キマシテハ、特殊ノ監査機關ト云フモノヲ設ケテ居ナインデアリマス、是等ノ人的會社ト、有限會社ハ固ヨリ其選ラ異ニ致シマスルガ、ヤハリ特殊ノ監査機關ヲ要シナイト云フ點ニ付テハ、同等ニ見テ宜クハナイカ、斯様ニ存ジタ次第デアリマス、是モ諸外國ノ例ヲ聞イテ見マシテモ、其實際上ノ運用等ヲ承ッテ見マシテモ、必ズシモ必要機關ニスルコトハ問題デナイ、斯ウ云フコトニ吾々承知ラシタモノデアリマスカラ、ソレニ倣ツタヤウナ次第デアリマス

又ハ第三者ノ爲ニ會社ハ取引ヲ爲スコトガ出來ル、斯ウ云フコトニナッテ居ルノデアリマスガ、監査役ガナイ場合ニハ、一體社員總會ヲ開イテサウ云フコトヲ決定スルコトニナルノデアルガ、斯ウ云フ點モ面倒ニナルト思フノデアリマス、殊ニ不都合ナノハ四十五條デアリマスガ、四十五條ニナリマスト、此法案デハ相當重要ナル規定ト思ヒマスガ「有限會社ノ業務ノ執行ニ關シ不正ノ行爲又ハ法令若ハ定款ニ違反スル重大ナル事實アルコトヲ疑フベキ事由アルトキ」デアリマスガ、此場合ニ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル社員ガ検査役ノ選任裁判所ニ請求スル、裁判所ガ必要アル場合ハ監査役ニ社員總會ヲ開クコトヲ命ズルコトガ出來ル、出來ナカツタ場合ニハ取締役ニサセルト云フ規定デゴザイマス、若シ監査役ガナイ場合ニ取締役ニサセルト云フコトニナリマスト、是ハ澤山ノ取締役ガアツタ場合ニハ差支アリマセヌケレドモ、一人ノ取締役シカナカツタ場合ニハ、自分ノ業務執行ニ關スル不正ノ行爲、又ハ法令若クハ定款ニ反スル行爲ヲ云フコトニナルノデハナイカ、斯ウ云フコトニナリマスト極メテ不都合ナ結果ヲ招

來スルノデハナイカ、是ハ所謂監査役ヲ任意ニ會社ニ任シテ居ルト云フ所カラ來ル缺陥デハナイカト思フノデアリマスルガ、此點ニ關シテハ如何御考テアリマセウカ
○大森政府委員 先づ第二十九條ノ關係デアリマスルガ、御指摘ノ通りニ、此場合ニハ社員總會ノ認許ヲ必要トスルコトニナッテ居リマス、御承知ノ通リニ株式會社ニ付キマシテハ、商法案ニ於キマシテ即チ第一百六十四條ニ於テ、株主總會ノ認許ヲ必要トシテ居ルノデアリマス、是ハ現行規定モヤハリ同ジコトニナッテ居リマス、デアリマスルカラ株式會社ニ於テハ株主總會、有限會社ニ於テハ社員總會、是ガ認許ヲ爲スト云フコトハ蓋シ至當デハナイカト存ズルノデアリマス、次ニ第三十條ノ點デアリマスルガ、成程御示シノ通リニ監査役ガナケレバ社員總會ノ認許ヲ經ナケレバナラナイノデアリマシテ、此場合ニ於テ社員總會ヲ閉クト云フコトガ、ウルサクハナイカト云フ御趣旨ノヤウニ拜聽ヲシタノデアリマスルガ、有限會社ニ於キマシテハ其特質ニ鑑ミテウルサクハナイノデアリマス、即チ社員總會ヲ閉キマスル其招集ノ手續ニハ、餘程裕リヲ認メテ居ルノデアリマシテ、株式會

デアリマス、ソレハ此案ノ第三十八條デア
リマス、即チ總社員ノ同意ガアレバ招集手
續ヲ經ナイデモ、總會ヲ開クコトガ出來ル
コトニナッテ居リマス、ソレカラ第四十二條
デアリマス、書面表決ト云フ便法モ認メラ
レテ居ルノデアリマス、ソレカラ又第三十
六條ニ於キマシテ、總會ヲ招集致シマスル
ニ致シマシテモ、定款デ以テ此招集通知ノ
期間ヲ、短縮スルコトガ出來ルヤウニナッテ
居ルノデアリマス、デアリマスルカラ、監
査役ガナイガ爲ニ特ニ此煩瑣ノ手續ヲ必要
トルノデハナイカト云フ點ニ付テハ、左
程御懸念ガナクテ濟ムノデハナイカト思フ
ノデアリマス、ソレカラ更ニ第四十五條ノ
問題デアリマスルガ、監査役ガナイ場合ニ
ハ、取締役ガ社員總會ヲ招集シナケレバナ
ラヌコトニナッテ居ルガ、其取締役ガ一人デ
アツタト云フヤウナ場合ニ、不都合ヲ生ジヤ
シナイカ、斯ウ云フ御質問ノヤウニ拜聽シ
タノデアリマス、洵ニ御尤モニ存ジマスル
ガ、之ニ付キマシテハ此案ノ第八十五條ノ
十二ニ依リマシテ、制裁ヲ科シテ居ルノデ
アリマス、有限會社ノヤウナ簡單ナ小規模
ノ組織デアリマスルナラバ、此程度ノ制裁

ニナリハシナイカト、斯様ニ考へタ次第デ

アリマス

○菊地委員 此法案ノ全體ヲ通ジテ此會社ノ代表、或ハ業務ノ執行者ニ少シ甘過ギヤシナイカト云フ感ジヲ持ツノデアリマス、例ヘバ後デ御質問申上ガタイト思ヒマスガ、書面ニ依シテ社員總會ト同ジヤウナ結果ヲ來タスヤウナコトヲ設ケタリ、或ハ監査役ヲ設ケナイデ業務ノ執行ナリ會社代表ナリノ取締ノ行爲ヲ監督スル機關ヲ全然缺イタリ、ドウモ會社ノ執行振ニ對スル監督ガ甘過ギルヤウニ出來テ居ルト思フノデアリマスガ、其爲ニモ、ドウシテモ此監査役ヲ置イテ嚴重ニヤラヌト云フトイカヌ、法案ノ本旨ハ相互認識ト云フコトヲ非常ニ重ク人近クノ人ニナリマスト、一家一族ノヤッテ居ル同族會社ト達ヒマシテ、色々ナ問題ガ惹起スルト思ヒマスノデ、ソレニハ監査役ト云フヤウナモノヲ置イテ、取締役ハ自分ノ行爲ニ對シテ監視スル者ガアルノダト云フ觀念ガナイト云フト、色々ナ間違ヲ起スノデヘナイカト斯ウ思フノデアリマスガ、監査役ト云フモノヲ任意規定シテ置カナイ、之ヲ株式會社ノヤウニ設ケルコトヘ、何カ不都合ナコトガ起ルノデアリマセウ

カ、其點ヲ御伺致シマス

○大森政府委員 特ニ不都合ト云フ程ノコトモナカラウカト思ヒマスルケレドモ、右申シマシタヤウナ小規模ノ會社デアリマスルカラ、監査役ト云フ特殊ノ機關ヲ必ズ設ケルト云フコトハ、煩瑣ニ過ギハシナイカ、

生ズル處ガ十分アルト思フノデアリマス、日本ノ民法ナリ商法ナリヲ見マスルニ、組合デアリマシテモ或ハ各種ノ會社ノ社員總會、株主總會ニ於キマシテモ、少トモ總會

ハ社員株主ガ集マリマシテ意見ノ交換ヲスル、意見ヲ上下シテ、サウシテ正シイ方ニ贊成ヲスル、サウシテ決議ヲヤッテ行クト云

マス、而モ是等ノ書面表決ノ便法ハ、總社員ノ同意ヲ必要トスルノデアリマスカラ、

一人デモ反対ガアレバ是ハ出來ナイノデアリマスルカラ、其點ノ弊害ハ先づ考ヘラレナイノデハナイカト思フノデアリマス、御承知ノ通リニ株式會社ト有限會社トノ最

相違シマスル點ハ、是ハ程度ノ問題デアリ

マスルケレドモ、一ハ社員ガ多數デアリ、

一ハ社員ガ少數デアルト云フ點デアリマス、

此程度ノ差ガ自ラ本質上ノ差トナルノデア

リマシテ、茲ニ有限會社ト云フ別種ノモノ

ガ、株式會社カラ派生シテ來タ次第デアリマス、デアリマスルカラ、是等ノ特色ヲ發揮シマスルガ爲ニ、第四十二條ノ如キ規定ヲ設ケマスルコトハ、蓋シ當然ノコトデハナイカト存ジタ次第デアリマス

マス、

賴ト云フ法案ノ趣旨ダケヲ御覽ニナルト云
フト、間違ヒノ本ニナルノデハナイカ、少
クトモ取締役ガ各社員ヲ訪問シテ判ヲ捺シ
テ吳レト言シテ歩イタナラバ、是ハ一人トシ
テ異議ヲ申立テルコトハ出來ナイノデアリ
マス、ソレハ取締役ニナル人ハ相當ノ地位
ノ人デ、腕モアリ、知識モアル人デアリマ
スカラ、結局社員ハイヤ／＼ナガラモ判ヲ
捺スヤウニナル、ソレガ所謂總會デ各社員
ガ集合シタ所デ意見ノ上下ガアッテ、初メテ
ドノ案ガ正シイカト云フコトガ分ッテ來ル
ト思ヒマス、相互信賴ト云フコトヲ高調ナ
サレマスケレドモ、例ヘバ我が民法ノ親族
篇ヲ見マスルト、親族會議ニ於テスラ、持
廻リ親族會議ト云フモノハ、判例ニ依リマ
スト無效ニナッテ居ルノデアリマス、四五人
ノ者ノ親族會議、而モ相互信賴ノ上デハ、
是以上強イ關係ガナニ親族會議デサヘモ、
持廻リハイカヌト云フコトニナッテ居ル、隨
テ私ハ相互信賴ノ間柄ト云フ理由デ、書面
デ審理スルト云フコトハ、極メテ重大ナ將
來ニ惡影響ヲ及ボスモノデハナイカ、此事
ニ依シテ此會社ガ内部ニ紛亂ヲ起ス原因ニ
ナルノデハナイカ、斯ウ云フヤウナ考方デ、
私共ハ此書面審理ニ慊焉タラザルモノガア
ルノデアリマス、民法ノ組合ノ規定カラ見

マシテモ、或ハ其他ノ商法ノ規定ヲ見マシ
テモ、總會ト云フモノハ必ズ集ッテ意見ノ上
テ、此點ハ如何デアリマセウカ
○大森政府委員 御尤ニモ存ジマスルガ、
先程モ申上ゲマシタ通りニ、書面表決ノ方
法ハ總社員ノ同意ヲ必要トスルノデアリマ
ス、デアリマスルカラ、濫ニ此便法ヲ利用
スルコトハ出來ナイノデアリマス、尤モ之
ニ對シマシテ、只今御述ベニナリマシタヤ
ウニ、取締役ガ口説イテ廻ルナラバ、何人
モイヤ／＼ナガラ反對ヲスルコトハ出來ナ
イグラウト云フ仰セデアリマシタ、左様ナ
不公正ノ手續ニ依リマシテ此決議ガ爲サレ
マシタナラバ、御承知ノ商法案ニ於キマス
ル決議取消ノ訴ガ、總テ此法文ニモ準用サ
レテ居ルノデアリマス、即チ第四十一條ニ
依リマシテ、商法案ノ策二百四十七條以下
ノ規定ガ準用サレテ居ルノデアリマス、デ
シテ、此手續ガ行ハレマシタナラバ、之ヲ
是正スル方法ニ付テ、此案ハ決シテ缺クル
所ハナイノデアリマス、尙ホ序デアリマ
スカラ申述ベマスガ、是亦御非難ノ點ニ相

成ルカハ存ジマセヌケレドモ、今日ノ民法
デナク、民法改正ノ問題デアリマスガ、民
法中親族篇、相續篇ニ付キマシテ、根本的
内ノ委員會デ調査立案ヲ致シテ居ルノデア
リマス、其際ニ親族會ノ決議ニ付キマシテ
ハ、ヤハリ全員ノ一致ガアリマシタ場合ニ、
ドウシテ書面審理ハイケナイト思フノデ
アリマス、此點ハ如何デアリマセウカ
○大森政府委員 御尤ニモ存ジマスルガ、
先程モ申上ゲマシタ通りニ、書面表決ノ方
法ハ總社員ノ同意ヲ必要トスルノデアリマ
ス、デアリマスルカラ、濫ニ此便法ヲ利用
スルコトハ出來ナイノデアリマス、尤モ之
ニ對シマシテ、只今御述ベニナリマシタヤ
ウニ、取締役ガ口説イテ廻ルナラバ、何人
モイヤ／＼ナガラ反對ヲスルコトハ出來ナ
イグラウト云フ仰セデアリマシタ、左様ナ
不公正ノ手續ニ依リマシテ此決議ガ爲サレ
マシタナラバ、御承知ノ商法案ニ於キマス
ル決議取消ノ訴ガ、總テ此法文ニモ準用サ
レテ居ルノデアリマス、即チ第四十一條ニ
依リマシテ、商法案ノ策二百四十七條以下
ノ規定ガ準用サレテ居ルノデアリマス、デ
シテ、此手續ガ行ハレマシタナラバ、之ヲ
是正スル方法ニ付テ、此案ハ決シテ缺クル
所ハナイノデアリマス、尙ホ序デアリマ
スカラ申述ベマスガ、是亦御非難ノ點ニ相

同業組合其モノデハアリマセヌケレドモ、
同ジ商賣ノ者同志デ有限會社ヲ拵ヘヨウト
思ヒマシタ場合ニ、例ヘバ丁度ソレガ六十
人アツタ、斯ウ場合ニ五十人ノ制限ヲ超エマ
スカラ、有限會社ヲニツニシナケレバナリ
マセヌケレドモ、之ヲニツニスルト云フコ
トハ、其目的カラ申シマスレバ無意義デア
リマス、然ラバ其十人ダケ除外シマスレバ、
ナイカト云フヤウナ議モ起シテ居リマス、マ
書面表決ニ依ル途ヲ拓イタ方ガ、便利デハ
ダ確定ヲ致シマセヌカラ、茲ニ之ヲ公表ス
ナイカト云フヤウナ議モ起シテ居リマス、マ
ル機會ニハ立到シテ居リマセヌケレドモ、思
フニ左様ニ相成リハシナイカト存ジテ居
ル次第デアリマス、右序デナガラ申述べテ
置ク次第デアリマス
○菊地委員 第八條ニ付テ御伺シタイノデ
アリマスガ、茲ニ「社員ノ總數ハ五十人ヲ超
エルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル場合ニ於
テ裁判所ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限りニ
在ラズ」此「特別ナル事情ト」云フノハ如何
ナル場合ヲ指スノデアリマスカ、出來マス
ナラバ、具體的ナ場合ヲ、二三擧ゲテ御說
明ヲ願ヒタイト思フノデアリマス
○大森政府委員 御指摘ノ第八條第一項但
書ノ場合デアリマスガ、例ヘバ或ル町ニ若
クハ或ル區ニ同業組合式ノ有限會社ヲ拵ヘ
テハ、裁判所方割斷ヲ下ス譯デアリマスカ
ラ、ソレニ先ダチマシテ私共ガソレガ適當
デアル、若クハ適當デナイト云フコトヲ申
述ベマスコトハ、差控ヘタイト存ジマスガ、
ヨウト思ヒマスル者ガ集リマシタ場合ニ、

假ニ抽象的ノ議論トシテ申シマスルナラバ、

只今ノ御設例ノ如キハ、ヤハリ此但書ニ該當シ得ル場合ガアルダラウト思フノデアリマス

○菊地委員 宜シウゴザイマス

○野村委員長 内藤君、大臣ガ見エマシタカラ……

○内藤委員 先程私カラ御願シテ居ツクコトヲ、此際大臣ニ御言明ヲ願ヒタイト思ヒマス、繰返シテ申シマスガ、此改正案ガ本院ヲ通過致シマスルナラバ、將來ノ適用ニ付テ二三申上ゲテ見タイ、其一つハ過日政府委員ガ答辯サレマシタケレドモ、大臣トシテハ、ドウ云フ方法ヲ以テ此商法ノ改正ヲ國民ニ周知セシメラレルノデセウカ、固ヨリ官報等ニ出ルノデアリマスガ、然ラバ當然國民ハ知ル譯ダト云フコトニナリマスガ、ソレダケデナク——過日ノ御言明ニ依レバ、來年ノ四月一日ヨリ施行スルト云フコトデアル、昨年ノ議會ニ於テハ、一二箇年猶豫期間ヲ置キタイト云フ御意見デアッタノヲ、本年ハ一年ニ縮メラレマシタカラ、其一年間ニ全部分ルヤウニスルニ付テハ、餘程努力シナケレバナラヌト思ヒマスガ、其方法ヲ承リタイ、ソレカラ第二ニハ、此罰則ノ中デ色々新設サレタモノモアリマス、

又從來ヨリ重クサレタモノモアリマスガ、殊ニ四百九十四條ノ請託、ソレカラ四百九

十三條ニモ請託ト云フコトガアリマス、ソ

コデ昨年ノ議會デモ問題ニナッタノデアリマスガ、「不正」ト云フ文字ガアルカラ宜イヤ

ウナモノデアリマスケレドモ、儀禮的ナ交際デモ、或ハ見ル人ニ依ッテハ、之ヲ儀禮ト

見ナイ場合モアリマセウシ、シマスカラ、普通ノ概念ニ於ケル儀禮ト云フ事柄ヲ、ドノ

範圍マデ當局トシテハ御考ニナッテ居ルカ、斯ウ云フコトニ付テ伺ヒタイトアリマス、

ソレカラモウ一つハ、過日本會議ニ於テ、司法大臣ニ商法ノ改正ニ付テ、取締役ハ株主デナクテモ出來ルト云フ規定ヲ置イタガ

爲ニ、動モスレバ官僚獨善ノ傾キカラ、

色々ナ問題ノ爲ニ弊ノ起ルコトハナイデハ

當ル人ノ如何ニ依リマシテハ、殊ニ大臣ガ

委員會ニ於テ御言明ニナッタ事柄デモ、局ニ申上ゲルノデアリマスガ、從來國務大臣ガ

アッタト思フノデアリマス、ソコデ其理由ヲ慥カ私ノ大臣出席ヲ要求シタ點ハ、此三點デ

ソレカラモウ一つハ、過日本會議ニ於テ、

司法大臣ニ商法ノ改正ニ付テ、取締役ハ株主デナクテモ出來ルト云フ規定ヲ置イタガ

爲ニ、動モスレバ官僚獨善ノ傾キカラ、

色々ナ問題ノ爲ニ弊ノ起ルコトハナイデハ

當ル人ノ如何ニ依リマシテハ、殊ニ大臣ガ

委員會ニ於テ御言明ニナッタ事柄デモ、局ニ申上ゲルノデアリマスガ、從來國務大臣ガ

アッタト思フノデアリマス、ソコデ其理由ヲ慥カ私ノ大臣出席ヲ要求シタ點ハ、此三點デ

ソレカラモウ一つハ、過日本會議ニ於テ、

司法大臣ニ商法ノ改正ニ付テ、取締役ハ株主デナクテモ出來ルト云フ規定ヲ置イタガ

爲ニ、動モスレバ官僚獨善ノ傾キカラ、

思ッテ、茲ニ大臣ノ御出席ヲ求メタ次第アリマス、惡シカラズ御諒承ヲ願ヒマス議場ニ御報告ノ時ニ、申述べテ戴キタイトアッタト思フノデアリマス、ソコデ其理由ヲ慥カ私ノ大臣出席ヲ要求シタ點ハ、此三點デ

ソレカラモウ一つハ、過日本會議ニ於テ、

司法大臣ニ商法ノ改正ニ付テ、取締役ハ株主デナクテモ出來ルト云フ規定ヲ置イタガ

爲ニ、動モスレバ官僚獨善ノ傾キカラ、

色々ナ問題ノ爲ニ弊ノ起ルコトハナイデハ

當ル人ノ如何ニ依リマシテハ、殊ニ大臣ガ

委員會ニ於テ御言明ニナッタ事柄デモ、局ニ申上ゲルノデアリマスガ、從來國務大臣ガ

アッタト思フノデアリマス、ソコデ其理由ヲ慥カ私ノ大臣出席ヲ要求シタ點ハ、此三點デ

ソレカラモウ一つハ、過日本會議ニ於テ、

司法大臣ニ商法ノ改正ニ付テ、取締役ハ株主デナクテモ出來ルト云フ規定ヲ置イタガ

爲ニ、動モスレバ官僚獨善ノ傾キカラ、

色々ナ問題ノ爲ニ弊ノ起ルコトハナイデハ

當ル人ノ如何ニ依リマシテハ、殊ニ大臣ガ

委員會ニ於テ御言明ニナッタ事柄デモ、局ニ申上ゲルノデアリマスガ、從來國務大臣ガ

アッタト思フノデアリマス、ソコデ其理由ヲ慥カ私ノ大臣出席ヲ要求シタ點ハ、此三點デ

ソレカラモウ一つハ、過日本會議ニ於テ、

司法大臣ニ商法ノ改正ニ付テ、取締役ハ株主デナクテモ出來ルト云フ規定ヲ置イタガ

爲ニ、動モスレバ官僚獨善ノ傾キカラ、

寸ノ間ニ御送リニナルト少シモ徹底シテ居リマセヌ、洵ニ遺憾デアリマス、而モソレハ委員會ノ速記録ニ載セマシタ爲ニ、全國ノ方モ知ラナカッタ、裁判所ノ方モ知ラナ

カッタト云フコトヲ後ニ發見致シマシテ、殊ニ私委員會ノ速記録等ヲ裁判所ニ持ッテ參

リマシテ、ア、斯ウ云フコトガアッタカト言ッテ、大阪ノ地方裁判所長、檢事正モ驚イテ居タノデアリマス、此際特ニ大臣ノ御言ヲ周知セシムル方法モアルト思フノデアリマス、ソレヲ特ニ御願ラスル次第アリマス、

マス、ソレヲ特ニ御願ラスル次第アリマス、

会モ少ウゴザイマスノデ、此處デ特ニ御言明ヲ願ッテ、サウシテ委員長カラ、斯ウ云フ

會モ少ウゴザイマスノデ、此處デ特ニ御言明ヲ願ッテ、サウシテ委員長カラ、斯ウ云フ

ソレバカリデモ、費用ハ直キニ盡キテシマヒマスルカラ、其他司法部關係ノ催シマス會合、若クハ他ノ催シニ依ル會合ニ於テ、司法官ガ出席致シマシテ、此新シキ會社ニ關スル立法ノ精神ヲ説キ、サウシテ國民ガ此法典ヲ手ニ取ツテ見ルト云フヤウニ指導シ、仕向ケテ行キタイト考ヘテ居リマス、出來ルダケ徹底スルヤウニ致シタイト考ヘ

イト云フコトニ確定致シテ居リマス、併ナガル疑問ガ残ルノデアリマス、此點ニ付キマシテハ、金品ノ收受ハ或ハ饗應等ガ果シテ儀禮のノ範圍ニ屬スルヤ否ヤト云フコトニ抽象的ニ定メルコトハ困難デアリマス、併シ利益ヲ收受致シマスル者ノ社會的ノ地位、資産、境遇、饗應ノ性質、程度、其他諸般ノ事情ニ依リマシテ、客觀的ニ決セラルベキモノニアリマシテ、所謂社會的ノ通念ニ從ツテ、自ラ其區別ヲ爲シ得ルモノト考ヘテ居リマス、此規定ノ運用ニ當リマシテハ、當局ニ於キマシテモ苛酷ニ涉ラザル様、十分ナル注意ヲ加ヘル心算デ居リマス、既ニ刑法賄賂罪ノ規定ノ適用ハ、長年ノ間ニ涉ッテ矢張同ジ趣意ノ下ニ解釋モシ、又判例トナツテ現レテ居リマスカラ、此新シイ商法ノ罰則ニ付キマシテモ、同趣旨デアルコトヲ部内一般ニ對シテ、十分ニ注意ヲ加ヘマスルナラバ、其結果ハ決シテ御心配ノヤウナコトハナイト考ヘテ居ル次第アリマス第三點ノ退職官吏ヲ會社ノ重役ニスルコトノ可否デアリマスルガ、或ル事業ノ監督ヲ爲ス官廳ノ官吏ガ、其退職ノ後ニ濫ニ其事業ヲ經營スル會社ノ役員トナルコトノ、

甚ダ望マシクナイコトハ勿論デアリマス、併ナガラ之ヲ防止スルコトハ、特殊ノ方法デ適當ナ處置ヲ講ズベキモノト考ヘテ居リ左様ナ規定ヲ設ケマスルコトハ、法規ノ本質カラ申シマシテモ、又體裁ノ上カラ申シマシテモ、適當デナイト考ヘテ居リマス、併シ御趣旨ノ點ニ付キマシテハ、十分研究ヲスル必要ガアルト考ヘテ居リマス、是ハ申サバ會社ノ營業ニハ官廳ニ關係ノアルモノモアリ、ナイモノモアル、又關係アル營業ト致シマシテモ、其會社其モノガ直接官廳ニ關係ヲ持ツテ居ナイト云フヤウナ場合モアリ、又退職ノ官吏ハ個人營業ト致シマシテ、官廳ト直接ノ取引ヲスルヤウナ者モアリマセウ、會社ノ致シマシテ一般的ニ特ニ退職官吏ニ付テノ規定ヲ設タルト云フノハ、非常ニ木ニ竹ヲ接イダヤウナ感ガアルノデハナイカ、寧ロ退職官吏ト云フモノガ、スルコトガ、好マシカラザルコトデハナイ退職後其官廳ト直接關係ノアル營業ニ從事カト云フ點ニ重點ヲ置マキスト、ソレガ會社ノ營業デアラウガ、個人營業デアラウガ、ケルト云フコトハ、考ヘラレルコトト思フサウ云フ方面カラ一般的ニ何カノ制限ヲ設ノデアリマス、併ナガラ其事業其モノガ順

調ニ發展經營サレルコトハ、其經營ノ衝ニ
當ル人ノ人材力量ニ俟ツモノデアリマスカ
ラ、ソコニ官廳ニ在職シタ當時ニ於ケル豊
富ナル經驗ニ依ツテ、新規ノ會社ナリ或ハ個
人ノ事業ト云フモノヲ遂行シテ行ク上ニ於
テハ、極メテ適當ナ人物デアル、又ソレニ
由ツテ多數ノ株主ニ利益ヲ與ヘルトカ、或ハ
又營業其モノノ發展ニ依ツテ、國家社會ニ利
スルコトガ多イト云フコトモ考ヘラレルノ
デアリマスルカラ、一概ニ退職官吏ハ官廳
ニ關係スル業務ニ從事シテハ相成ラスト決
メルコトモ、如何カト考ヘラレルノデアリ
マス、併ナガラ又反面ニ於テハ、ソレニ伴
フ弊害ヲ生ズル虞ナキニシモアラズデアリ
マス、ソコデ十分ニ考究ヲシテ見マセヌケ
レバ、唯一二ノ例ヲ以テ全般フ律スルト云
フヤウナコトハ、早計デハナイカト考ヘマ
スルカラ、茲ニ確タル御答ヲ申上ゲルコト
ハ困難デアリマス、此點ニ付キマシテハ十
分研究致シマシタル上ニ於テ、然ルベク處
置ヲ致シタイト考ヘテ居リマス

○内藤委員

ニ發展經營サレルコトハ、其經營ノ衝ニ
當ル人ノ人材力量ニ俟ツモノデアリマスカ
ラ、ソコニ官廳ニ在職シタ當時ニ於ケル豐
富ナル經驗ニ依ツテ、新規ノ會社ナリ或ハ個
人ノ事業ト云フモノヲ遂行シテ行ク上ニ於
テハ、極メテ適當ナ人物デアル、又ソレニ
由ツテ多數ノ株主ニ利益ヲ與ヘルトカ、或ハ
又營業其モノノ發展ニ依ツテ、國家社會ニ利
スルコトガ多イト云フコトモ考ヘラレルノ
デアリマスルカラ、一概ニ退職官吏ハ官廳
ニ關係スル業務ニ從事シテハ相成ラヌト決
メルコトモ、如何カト考ヘラレルノデアリ
マス、併ナガラ又反面ニ於テハ、ソレニ伴
フ弊害ヲ生ズル虞ナキニシモアラズデアリ
マス、ソコデ十分ニ考究ヲシテ見マセヌケ
レバ、唯一二ノ例ヲ以テ全般ヲ律スルト云
フヤウナコトハ、早計デハナイカト考ヘマ
スルカラ、茲ニ確タル御答ヲ申上ゲルコト
ハ困難デアリマス、此點ニ付キマシテハ十
分研究致シマシタル上ニ於テ、然ルベク處
置ヲ致シタイト考ヘテ居リマス

轉シテ行クト云フ事柄ハ、面白クナイ現象デアルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、ソコデ大臣ノ答辯モアリマシタガ、技術者ナラバ大臣ノ御答ハ洵ニ御尤ナ話デ、立派ナ技術ヲ御持チニナツカ方ガ法規ノ關係上、或ハ停年退職モアリマセウカラ、斯ウ云方ハ國寶トシテ御迎ヘスルト云フコトハ弊害ハ少イノデス、然ルニ何等ノ技術ノナイ、本當ニ事務家デアリシ人、會社デ間ニ合ハナイヤウナ人デモ之ヲ迎ヘルニ非ズンバ、幾多ノ註文モ貰ヘナイト云フ現象ノ今日各所ニ起ル此弊ヲ、如何ニシテ除クカト云フコトガ私共ノ狙ヒ所デアル、其意味ニ於テ大臣ニ質問シタト云フコトヲ、大臣ニ特ニ御記憶ヲ願ツテ置キタイ、恐らく司法官ニハアリマセヌ、潰シガ利キマセスカラアリマセヌケレドモ、外ニハ隨分アル、ソコデ私共ハ他ニモ此弊ニ惱シニ居ル者ガ澤山アルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、是ハ特ニ御考慮ヲ願ヒタイ、ソレハ具體的ニハ申上ゲマセス、ソレカラ先程ノ問題デアリマス、一番初メノ問題デアリマス、社會通念ト云フコトデアリマスガ、此通念ハ人々依ヅテ違フ、又法ヲ司ル人ノ生涯、生ヒ立チニ依ヅテ色々違フノデアリマシテ、之ニハ司法省トシテ、シカカリトシタ基準ヲ御示シ

ニナラナケレバ、將來帝人事件ドコロノ騒
ギデハナイ人權蹂躪事件ガ起ラストモ限ラ
スト私ハ思フノデアリマス、ソコデ先程仰
セニナリマシタガ、是ハ餘程大臣トシテハ
頭ノ達ツタコトヲ仰シヤッタ、從來贈收賄ナ
ドヲ起スノハ、昔ハ官吏デアッタ、後ニハ是
ガ公務員ニナッタ、日本ノ刑法發達ノ歴史ヲ
見マシテモ、官廳關係ノミニ限ッタノデアリ
マス、然ルニ此度民間ニ捨テ置イテ顧ミナ
カツタ商法法規ニ、官公吏ト同ジヤウナ規定
ヲ以テ、此實業界ニ御臨ミニナッタ、ソレダ
カラ今アナタノ仰シヤッタヤウニ刑法法規
ノ贈收賄ノ觀念ヲ以テ、此事業會社ニ臨ム
ト云フコトガアルト、不實ノ記載ヲスルト
カ云フコトニ付テハ宜シウゴザイマスガ、
其以外ノ事柄ニ付テハ、餘程運用ヲ誤ラヌ
ヤウニ考ヘナケレバ、產業上ニ及ボス影響
モ少クナイト思フノデアリマス、強チアナ
タノ御設ケニナリマシタ此規定ガ「不正ノ
請託ヲ受ケ財產上ノ利益ヲ改受シ、要求シ
又ハ約束シタルトキ」ト書イテアリマスガ、
此事柄自體ハ、會社ノ利益ニナル場合モナ
ルヤウニ、會社ノ不利益ヲ常ニ來タスカラ、
是ハ斯ウ云フ規定ヲ設ケルト云フコトニナ
ラヌ場合モアル、例ヘバ重役ガ多クノ報

ト云フト言葉ガ悪イデセウガ、俸給以外ノ賞與ヲ貴ツテ、其賞與ノ中ヲ割イテ、色々ナ方面ニ撒カヌトモ限リマセヌ、社交モセヌトハ限リマセヌ、而モソレハ會社ニ何等ノ損害ヲ與ヘナイコトガアルノデアリマス、會社ノ利益ニコソナレ、不利益ニナラヌコトガアルノデアリマス、此使ヒ方如何ニ依リマシテハ、ソレハ一ツノ血刀ニナッテ此法規ニ觸レヌトモ限リマセヌ、其運用ニ付テハ初メテノ法規デモアリマスルシ、各方面ノ人モ可ナリ戦慄ヲ覺エテ居ルヤウデハアリマスルカラ、此運用ニハ、ドウカ檢事ノ方ニハ特別ニ檢舉ニ付テハ御留意ヲ賜ル様、方法ヲ御講ジヲ願ツテ置キタイ、先カラ儀禮々々ト云フコトヲ申シテ居ラレマスケレドモ、儀禮ハ非常ニムヅカシイノデス、主觀的ニ見ルカ、客觀的ニ見ルカ、或ル政府委員ノ仰セニ依レバ、客觀的ニ見ルノダト言ハレルガ、是ハ主觀的ノ場合モ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、中ニハヒドイ人ガアツテ、自ラガ樂ム爲ニ非常ニ饗應ヲシテ置キナガラ、片一方ハ迷惑ヲ受ケテモ、席ニ臨ンダカラ饗應ヲ受ケタカノ如キ罰則ヲ受ケマシタ氣ノ毒ナ人ヲ、私共鐵道疑獄ニ於テ見テ居リマス、サウ云フヤウナコトガアリマシタノデ、ソレヲ申シテ置キマス、モウ一點序デ

ニ御尋シマスガ、此條文ハ總テ効キ掛ケニ
ナツテ居リマス、デアリマスカラ、請託ヲシ
タカ、或ハ要求シ、約束シタカト云フダケ
デアッテ、事柄ノ済ンダ後ニ勝手ニ贈ッタノ
ハ、罪トシナイト心得テ宜シイデセウネ、
必ズ初メニ請託ガアッテ、ソシテ財産上ノ利
益ヲ受ケテハイケナイ、請託ガ必ズ初メニ
伴フ、要求シタ、約束シタ、要求モシナケ
レバ約束モシナイ、事柄ガ濟ンデ半年、一年
先キニナツテ贈ッタモノハドウナルノカ、今
マデノ事例ヲ見ルト、斯ウ云フコトニナツテ
居ル、檢事ノ起訴決定書ニ依リマスト、何々
ノ仕事ノ便利ヲ受ケタル謝禮トシテト云
フ抽象的ナ文字ガ記入サレテ居マス、デス
カラ事柄ノ時ニ直接ニヤッタノデハ問題ガ
起リマスガ、半年、一年先キニヤル、アナ
タノ仰シヤッタノトハ大分違フ、是モ從來ト
同ジヤウニ、ヤハリ將來之ヲ取締ルノカ、
大臣カラ言明ヲ伺ッテ置キタイ、今マデハサ
ウナノダカラ危クテ仕様ガナイノデス
○鹽野國務大臣 罰則ノ點ニ付キマシテ
ハ、勿論新シイ、法律ガ出來マシタ場合ニ
ハ、特ニ部内ニ對シマシテ十分ナル注意ヲ
加ヘルノデアリマス、殊ニ又此罰則ノ適用
ニ付テハ、十分ニ注意ヲ致スコトニナルノ
デアリマス、御尋ノ、唯後ニナツテ金品ノ授

受ガアッタト云フダケデハ、犯罪トハナラ
ヌト考ヘテ居リマス、ソレニ付テ不正ノ請
託ガアッタト云フヤウナコトニナリマスト、
是ハ又別デアリマスガ、御尋ノヤウナ場合
ハ犯罪ニナラナイト考ヘマス、約束ガアッテ
ハイケマセヌガ、約束モナク、要求モナイ、
サウシテ後デ、サウ云フ金品ノ授受ガアッタ
ト云フ場合ハ犯罪ニナラナイ斯ウ解釋シテ
居リマス

○内藤委員 無聲有言、聲ナクシテ言葉ヲ
發スルト云フコトガ、今マデ世ノ中ニアッタ
ノデスカラ、今後檢舉シナイト云フコトハ
委員長モ能ク覺エテ置イテ下サイ、是ハ將
來問題ニナルト困ルカラシ、檢事ハアナタ
ノ仰シヤルヤウニハ行カヌノデス

○鹽野國務大臣 其場合、不正ノ請託ガア
レバイカヌノデス

○内藤委員 サウ云フコトハナイ場合デス

○鹽野國務大臣 ソレデハ罪ニナリマセヌ
○内藤委員 此際大臣ニ一言申上ゲテ置キ
マスガ、必ズサウ云フコトガアッタ場合ニ
ハ、不正ノ請託ト看做スト云フヤウナコト
ハ言ハセマセヌゾ、不正ト云フコトガ問題
トナリマスガ、不正ト云フコトハ正シクナ
イ、正シクナイト云フコトハ社會通念上ド
ウ云フコトカ、詰リ爲スベカラザルコトヲ

爲サシメタト云フコトガ不正ダ、斯ウ私ハ
思フ、サウ云フコトナシデ商賣人ガ勉強致
シマス爲ニ、「サービス」トシテ、色々御世
話ニナッタノダカラト云フノデ、一圓デモ儲
ケサシテ戴キタイト云フノデ、之ヲ配ルト
云フコトハ、是ハ世間ニ能クアル、サウ云フ
時ニハ不正ノ請託ハナイ、片方ニハ授受ガ
伴ツテ居ル、サウ云フ場合、從來ノヤリ方ニ
依ルト、實費竝ニ報酬ノ爲ト云フヤウナ勝
手ナ名目ヲ付ケテ檢舉サレテ居ル、アノ式
デヤラレタラ皆檢舉サレテシマフ、ダカラ
特ニ大臣ニ確メテ置イテ、何モ言ハナイ時
ニハ罪ニナラヌ、詰リ無聲有言ト云フコト
ハ絶對ニ將來罪ニシナイト云フコトヲ、ド
ウカ委員長モ是ハ能ク記憶シテ置イテ戴イ
テ、本會ニ必ズ御報告ヲ願ヒマス

○内藤委員 此際大臣カラ、モウ一ツ言明
ヲ願ヒタイ、政府委員ノ方ハ既ニ言明サレ
タノデスガ、此法案ノ施行ニ際シテハ十二
ニハ遺憾ナキヲ期スルト云フ大臣ノ御言葉
ヲ聽イテ、洵ニ結構ダト思ヒマス、併シ唯
モット突進ンデ、此法案ハ二年間掛テ一般
ニ周知セシメタイト云フノヲ、一年ニサレ
タノデスカラ、司法大臣トシテハ司法官全
部ノ大異動ヲ行ッテ、サウシテ或ハ司法官合
同モアリマセウガ、田舎ニ行ケバ檢事正デ
モ訟廷ニ出ルコトガアリマスガ、大體ニ於
ハ見ルコトガ少カラウト思フ、ソレヲ如何

胡麻化シハ、最近ハ問題ニナラナイデスヨ
シマス爲ニ、「サービス」トシテ、色々御世
話ニナッタノダカラト云フノデ、一圓デモ儲
ケサシテ戴キタイト云フノデ、之ヲ配ルト
云フコトハ、是ハ世間ニ能クアル、サウ云フ
時ニハ不正ノ請託ハナイ、片方ニハ授受ガ
伴ツテ居ル、サウシテ仕上げテ、又田舎ノ人デ
仕上ヅタ人ヲ他ノ地方ニ廻ハス、斯ウ云フヤ
ウ云フ人ヲ各地方ニ出シテヤッテ、宣傳機關
ニスル、サウシテ仕上げテ、又田舎ノ人デ
仕上ヅタ人ヲ他ノ地方ニ廻ハス、斯ウ云フヤ
ウナコトヲ何カ考ヘナケレバ、イカヌト思フ、
適當ニ善處致シタイト考ヘマス

○内藤委員 此際大臣カラ、モウ一ツ言明
ヲ願ヒタイ、政府委員ノ方ハ既ニ言明サレ
タノデスガ、此法案ノ施行ニ際シテハ十二
ニハ遺憾ナキヲ期スルト云フ大臣ノ御言葉
ヲ聽イテ、洵ニ結構ダト思ヒマス、併シ唯
モット突進ンデ、此法案ハ二年間掛テ一般
ニ周知セシメタイト云フノヲ、一年ニサレ
タノデスカラ、司法大臣トシテハ司法官全
部ノ大異動ヲ行ッテ、サウシテ或ハ司法官合
同モアリマセウガ、田舎ニ行ケバ檢事正デ
モ訟廷ニ出ルコトガアリマスガ、大體ニ於
ト思フ、ソレヲ此間政府委員カラ述べラレ
タノデスガ、政府委員ハ唯事務的ナ御話、
大臣ハ大所高所カラ大乘的ニ爲サルノダカラ
、一ツ此際御言明ヲ願ヒタイ

○鹽野國務大臣 此法案ハ昨年カラ實施ノ
準備ヲヤッテ居リマスルガ、愈々、本案ガ成立ス
ルコトニナリマスレバ、尙ホ一層之ヲ周知
スルコトニ努メナケレバナリマセヌ、ノミ
ナラズ御説ノヤウニ先ヅ裁判所職員ガ能ク
之ヲ知ッテ、運用ヲ誤ラナイヤウニシナケレ
バナラナイノデアリマス、隨テ此點ニ付テ
ハ申ス迄モナク十分ニ注意ヲ致シマスルガ、
具體的ニ申シマスルト、必要ニ應ジテ人員
ノ充實ヲ行ヒマシテ、之ニ伴ツテ相當廣イ範
圍ノ異動ヲモ實行致シマシテ、都會ノ人ト
地方ノ者トノ入レ替ヲ行ヒ、隨テ新知識ト
申シマスルカ、ソレヲ有スル者ガ參ッテ同僚

ニ對シテ刺戟ヲ興ヘル方法モ講ジマスルガ、尙又實務家ノ會同ヲ致シマシテ、全國ノ判事ノ中デ、永年東京ヘ參ッタコトノナイヤ新法ノ解釋竝ニ運用ニ付テノ考究ヲモ、致サセ得ルノデアリマス、デ尙ホ早速監督官ヲ集メマシテ、新法ノ解釋竝ニ運用ニ付テノ注意ヲ致シマスコトヘ、是ハ勿論ノ話デアリマスルガ、ソレ以外ニ於キマシテモ直接第一線ニ立ツテ居ル判事ヲ招集シテ、講習的ノコトヲ行フ、斯ウ云フ考デ居リマス○西田委員 私一寸一點ダケ伺ヒマスガ、近頃ノ會社ノ經營ノ傾向ヲ見マスルト、寧ロ増資ヨリモ社債ニ依ルコトノ方ガ多クナツテ居ルヤウデアリマス、殊ニ特殊會社ニ於テハ拂込金額ノ五倍モ六倍モ社債ヲ發行スルト云フヤウナ傾向ニナツテ參リマシタ、此商法ノ改正ニ當リマシテ、ヤハリ社債ヘ拂込總額ヲ超ユルコトヲ得ナイト云フコトハ、今迄通りニ決メラレテ居ルノデアリマス、之ヲ拂込額以上ノ相當額マデ社債ヲ發行スルコトヲ許シ、ソレヲ或ル制限ノ下ニ裁判所デ認可ヲヤツテ行クト云フコトハドウカト云フコトヲ、私考ヘテ居リマシタ、今直チニサウシヨウト云フノデハアリマセヌ、此御尋ヲスル以上ハ、サウ云フ考ヘ方ヲ將

來ニ對シテ御持チニナツチ居ルカト云フコトヲ、御尋シテ居ルノデアリマス、一體今度ノ商法デハ、隨分刑罰ノ方ダケハ劃期的ニ變更シテ居リマスルケレドモ、斯ウ云フ點ニ對シテハ、裁判所ノ方ガ事業自體ニ干與居ルノデハナイカト云フ風ニ考ヘマス、吾吾ガ普段實際ニ當テ見マシテ、率直ニ申シマスト檢事局ノ方ガ勢ガ強クテ裁判所ノ方ノ勢ガ弱イ、ソレハ裁判所ハ何ト言ヒマスカ殿堂ノ中ニ入ッテ居ッテ、外ニ出テ行カナイノデハナイカ、斯ウ思フノデアリマス、殊ニ諸官省ノ中デモ司法省ハ、現在非常ニ消極的デナイカト云フコトヲ始終思ッテ居リマス、デアリマスカラ、モウ既ニ各種ノ調停法ニ於テ裁判所ハ街頭ニ出テ居ルノデアリマスカラ、將來會社ノ經營ノ内容ニマデモ入ッテ、少シ助長スルト云フ御考ヲ、立法ノ上ニ現ス御意思ガナイカ、ソレガ却テ司法省ヲ強クスル所以ニナリマス、又裁判所ガ本當ニ街頭ニ出ルト云フコトニモナルノデアリマス、司法省ト致シマシテハ、サウ云フ御心構ヘヲ御持チニナツテ居ルカドウカト云フコトヲ一つ伺ツテ置キマス

法デ、或ハ拂込株金ノ五倍デアルトカ十倍
デアルトカ、更ニソレ以上ノ例外ヲ認メテ
居ルモノガ、大分殖エテ參ッタノデアリマ
ス、唯私共ト致シマシテハ一般基準の問
題ト致シマシテ、ヤハリ社債ノ堅實ヲ圖リ
マスル爲ニ、此案ニ示シマスヤウナ標準ヲ
以テ、基本的原則トシテ參リタイト存ズル
ノデアリマス、ソレデ特殊ノ場合ニ特別注
ニ於テ此制限ヲ超シマスル場合、或ハソレ
ヲ擔保付社債ニ限りマストカ、或ハ政府ガ
保證ヲスルトカ何等カノ方法ニ依リマシテ、
社債ノ堅實化ヲ圖ル必要ガアラウト思フノ
デアリマス、御承知ノ商法ノ無擔保社債ニ
付キマシテハ、今尙ホ此一般的原則ヲ超エ
タクナイト存ジテ居ル次第デアリマス、尙
ホ裁判所ガ會社ノ事業經營ニモ進ンデ干與
スルヤウニト云フ御懇切ナル御注意ガアリ
マシタ、是ハ私ヨリ御答スルノハ如何カト
存ズルノデアリマスガ、此案ニ付キマシテ
モ御承知ノ通り、會社ノ整理ソレカラ特別
清算ト云ッタヤウナ、相當重要ナル問題ニ裁
判所ガ干與スルコトニ致シマシテ、此運用
ニ付テハ固ヨリ十分ニ努力ヲシナケレバナ
リマセヌガ、其運用正シキヲ得マスルナラ
バ洵ニ立派ナル效果ヲ擧ゲルモノト信ジテ

居ル次第デアリマス、固ヨリ是ハ整理ナリ
前ノ會社經營ニモ乘出シテハドウカト云フ
御趣旨デアリマシテ、是等ハ漸ヲ逐ウテ進
ンデ行クベキデハナイカト思フノデアリマ
ス、デアリマスカラ此案ニ付キマシテ、裁
判所ノ干與ノ程度ガマダ少イデヤナイカト
云フ御注意ハ御尤デアリマスケレドモ、私
共ト致シマシテハ此整理ナリ特別清算ニ對
スル裁判所ノ干與ノ實績ヲ見マシテ、更ニ
大イニ圖ル所ガアラウト思ツテ居リマス、暫
クソレヲ御待チヲ願ヒタイト云フコトデ、
御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス
○山本委員 大臣御臨席デアリマスカラ、
一言御尋シテ置キタイノデアリマス、内藤
委員ヨリノ御質問ニ依リマシテ、本法施行
ニ際シ先づ司法省部内ニ之ヲ知悉セシメ、
更ニ一般大衆ニモ知ラシメルコトノ御対策
ニ付テハ、窺ヒ知ルコトガ出來タノデアリ
マスガ、私ハソレダケデハ満足ガ出來ヌノ
デアリマス、御承知ノ如ク近代ノ政治ト經
濟ノ關係ハ、從來ト其趣ガ顛倒シテ居ル、
自然ガ經濟ヲ支配シテ居ツタ時代ハ、政治
ガ經濟ヲ支配スルヨコトガナカツタ、寧ロ經濟
アツテ政治ガアツタノデアリマスガ、サウ云
フ時代ハ既ニ過去ノモノニナツテシマック現

アル、ヤカマシイ言葉デ頻ニ統制經濟機構
ニ於テハ、思想經濟デアル、權力經濟デ
アルト云フコトヲ言ハレテ居リマスルヤ
ニナッテ來テ居ル、政治ガ經濟ヲ支配スル
態ニナッテ來テ居ル、政治ガ經濟ヲ支配スル
コトニナッテ、統制々々ト云フコトニナッテ
來ルト、ドウシテモ勢ヒ其處ニ支配スル政
治ト支配セラル、經濟トノ間ニ相剋ガ起り
易イ、然ラバ其相剋ヲドウシタラ除去スル
コトガ出來、絶無ナラシムルコトガ出來ル
カト云フコトヲ考ヘテ見マスレバ、是ハ政
治ト經濟トヲ渾然ト一丸ニシナケレバナラ
ナイ、即チ全體的ノ機構ニシナケレバナラ
ノデアリマス、本案ニ付テモサウ云フコト
ヌト云フコトハ、近代叫バレテ居ル通リナ
ガ一々肯カレル、商法ハ御承知ノ如ク是ハ
經濟上ノ原則規定デアッテ、隨テ此法ガ施行
セラレタ曉ニ於テ、日本ノ經濟上之ニ及ボ
ス影響ト云フモノハ甚大デアリマス、何ト
ナレバ本法案ハ先程申上ゲタヤウニ政治
ガ經濟ヲ支配スルト云フ此社會ノ流レニ乘
リマシテ、甚シク行過ギテ居ルノデハナカ
ラウカト思ハレル程、國家ノ權力ガ此規定
ノ中ニ餘計加ハッテ居ル、其爲ニ裁判所ノ關
與スル部面ガ非常ニ多イ、之ヲ大別スルト
第一ガ監督取締、第二ガ手續上ノ問題、此

監督取締ノ規定が非常ニ殖エテ、手續上ノ規定、即チ非訟事件ニ屬スペキ事件ガ非常ニ多イ、ソコデ監督指導ト云フ立場カラ常ニ尊ブノデアリマスルカラ、此監督指導ノ規定ノ運用ハ、敏速デアルト同時ニ、極メテ有能練達ノ士ニ當ッテ貰ハケナレバナラヌコトハ論ヲ俟タス、手續上ノ問題ハ極メテ敏速ニ正確ニ、公平ニヤツテ行カナケレバ、實際商取引ニ合ツテ來ナイ、合ツテ來ナケレバ、ソコニ相剋ガ起ル、斯ウ云フコトガ窺ヒ得ラレルノデアリマス、ソコデ斯ウ云フ風ニ本法施行ノ曉ニ於キマシテ、裁判所ノ關與スル部分ガ増大シテ來ルノデアリマスカラ、之ヲ圓滑ニ運用スルノニハ、ドウシテモ經濟ノ實際ニ通曉シタ司法官ヲ採用スルト云フコトガ、必然的ニ起ツテ來ルト思ハレルノデアリマス、此點ニ付テ司法大臣ノ御所見ガ伺ヒタイ、即チ從來叫バレテ居ルヤウニ司法官ノ一元化ヲ圖リマシテ、實際社會ニ活動セラレテ、經濟ノ實際ニ少クトモ餘計「タッチ」シテ居ル在野法曹ノ中ノ優秀ナル者ヲ裁判官ニ採用シテ、サウシテ斯ウ云フ増大セラレタ權力ニ依ル經濟ノ統制思フノデアリマス、司法官ノ一元化ハ直チヲ圓滑ナラシメルト云フコトガ、必要ダント

二 實施出來ナイトシモ、其漸進的意味ガ、
ラシマシテモ、廣ク在野ヨリ人材ヲ集メテ、
サウシテ此監督、指導、手續ノ敏速、正確、
公平ヲ期スルト云フコトガ、本法施行ノ上
ニ於テ其實績ヲ擧ゲル所以ダト思ハレル、
此點ニ對スル司法大臣ノ御所見ヲ伺ッテ置
キタインデアリマス

第二點ハ、結局左様ニ致シマスルノニハ、
勢ヒ豫算ガ擴大セラレナケレバナラナイコ
トハ、論ヲ俟タナイノデアリマス、然ルニ
從來司法省ノ豫算ト云フモノハ、ドウ云フ
關係デアルカ、私共ニハ能ク分リマセヌケレ
ドモ、極メテ貧弱デアル、色々司法大臣ニ於
テ政府當局ト御折衝ニナリ、大藏省ト御折衝
ニナツテ御努力ニナツテ居ルコトハ、私モ能ク
承知シテ居リマスケレドモ、如何セン貧弱
デアル、軍部ノ豫算ナドニ比較スルト九牛ノ
一毛ニ過ギナイ、然ルニ今回茲ニ提案サレ
タ本法案ヲ實施スルニ當リマシテハ、先程
申上ガマシタヤウニ非常ニ手續ガ煩瑣ニナ
リ、裁判所ノ關與スル部分ガ増大サレルノデ
アルカラ、從來ノ如キ裁判所ノ當局ダケデ
ハ、ソレコソ經濟上ニ非常ナ相剋ヲ來スコ
トハ火ヲ観ルヨリモ明ダト思ハレル、何ト
ナラバ非常ニ手續ガ多クナリ、監督取締ガ
非常ニ多イノデアリマス、ソコデ司法省ノ

豫算ヲ増大シテ、先程申上ゲタヤウニ甚ダ司
ト云フコトガ、必然的ニ必要ニナッテ來ルノ
デアリマスガ、先程申上ゲタヤウニ甚ダ司
法省ノ豫算ガ從來貧弱デアル、其貧弱ナル
原因ヲ探究シマスレバ、色々ノ原因モアリ
マセウケレドモ、私ハ之ヲ更ニ増大セシム
ル一ツノ方法トシテ、一體從來ノ司法當局
ハ在野法曹、其中デモ殊ニ議席ヲ有スル在野
法曹等ニ對スル緊密ナル連絡ガ缺ケテ居ル
ノデハナカラウカ、少クトモ司法當局ニ對
スル在野法曹ノ認識ハ、他ノ一般人ヨリモ
少クトモ同情アリ、又深イ認識ヲ持ッテ居ルト
確信スルノデアル、故ニサウ云フ議席ヲ有
スル者ト、尙更ニ一層ノ緊密ナル連絡ヲ
圖ツテ、意思ノ疏通ヲ促シマシテ、サウシテ
政府當局ニ當ッテ、政府當局ヨリ必要ナル豫
算ヲ獲得セラレテ、本法實施ノ效果ヲ擧ゲ
ラレルコトガ、特ニ必要ダト思フノデアリ
マスガ、此點ニ對スル司法大臣ノ御所見ヲ
伺ッテ置キタイノデアリマス

○鹽野國務大臣

御示シノ監督竝ニ手續ノ

アル、ヤカマシイ言葉デ頻ニ統制經濟機構
デアルト云フコトヲ言ハレテ居リマスルヤ
ウニ、寧ロ經濟ヲ政治ガ支配スルト云フ狀
態ニナツテ來テ居ル、政治ガ經濟ヲ支配スル
コトニナツテ、統制々々ト云フコトニナツテ
來ルト、ドウシテモ勢ヒ其處ニ支配スル政
治ト支配セラル、經濟トノ間ニ相剋ガ起リ
易イ、然ラバ其相剋ヲドウシタラ除去スル
コトガ出來、絶無ナラシムルコトガ出來ル
カト云フコトヲ考ヘテ見マスレバ、是ハ政
治ト經濟トヲ渾然ト一丸ニシナケレバナラ
ナイ、即チ全體的ノ機構ニシナケレバナラ
ヌト云フコトハ、近代叫バレテ居ル通リナ
ノデアリマス、本案ニ付テモサウ云フコト
ガ一々肯カレル、商法ハ御承知ノ如ク是ハ
經濟上ノ原則規定デアツテ、隨テ此法ガ施行
セラレタ曉ニ於テ、日本ノ經濟上之ニ及ボ
ス影響ト云フモノハ甚大デアリマス、何ト
ナレバ本法案ハ先程申上ゲタヤウニ政治
ガ經濟ヲ支配スルト云フ此社會ノ流レニ乘
リマシテ、甚シク行過ギテ居ルノデハナカ
ラウカト思ハレル程、國家ノ權力ガ此規定
ノ中ニ餘計加ハツテ居ル、其爲ニ裁判所ノ關

監督取締ノ規定が非常ニ殖エテ、手續上ノ規定、即チ非訟事件ニ屬スペキ事件ガ非常ニ多イ、ソコデ監督指導ト云フ立場カラ常ニ尊ブノデアリマスルカラ、此監督指導ノ規定ノ運用ハ、敏速デアルト同時ニ、極メテ有能練達ノ士ニ當ツテ貫ハケナレバナラヌコトハ論ヲ俟タス、手續上ノ問題ハ極メテ敏速ニ正確ニ、公平ニヤツテ行カナケレバ、實際商取引ニ合ツテ來ナイ、合ツテ來ナケレバソコニ相剋ガ起ル、斯ウ云フコトガ窺ヒ得ラレルノデアリマス、ソコデ斯ウ云フ風ニ本法施行ノ曉ニ於キマシテ、裁判所ノ關與スル部分ガ増大シテ來ルノデアリマスカラ、之ヲ圓滑ニ運用スルノニハ、ドウシテモ經濟ノ實際ニ通曉シタ司法官ヲ採用スルト云フコトガ、必然的ニ起ツテ來ルト思ハレルノデアリマス、此點ニ付テ司法大臣ノ御所見ガ伺ヒタイ、即チ從來叫バレテ居ルヤウニ司法官ノ一元化ヲ圖リマシテ、實際社會ニ活動セラレテ、經濟ノ實際ニ少クタモ餘計「タッチ」シテ居ル在野法曹ノ中ノ優秀ナル者ヲ裁判官ニ採用シテ、サウシテ斯ウ云フ増大セラレタ權力ニ依ル經濟ノ統制思フノデアリマス、司法官ノ一元化ハ直チヲ圓滑ナラシメルト云フコトガ、必要ダト非秀ナル者ヲ裁判官ニ採用シテ、サウシテ斯

二 實施出來ナイトシデモ、其漸進的意味ガ、
ラシマシテモ、廣ク在野ヨリ人材ヲ集メテ、
サウシテ此監督、指導、手續ノ敏速、正確、
公平ヲ期スルト云フコトガ、本法施行ノ上
ニ於テ其實績ヲ擧ゲル所以ダト思ハレル、
此點ニ對スル司法大臣ノ御所見ヲ伺ッテ置
キタインデアリマス

第二點ハ、結局左様ニ致シマスルノニハ、
勢ヒ豫算ガ擴大セラレナケレバナラナイコ
トハ、論ヲ俟タナイノデアリマス、然ルニ
從來司法省ノ豫算ト云フモノハ、ドウ云フ
關係デアルカ、私共ニハ能ク分リマセヌケレ
ドモ、極メテ貧弱デアル、色々司法大臣ニ於
テ政府當局ト御折衝ニナリ、大藏省ト御折衝
ニナッテ御努力ニナッテ居ルコトハ、私モ能ク
承知シテ居リマスケレドモ、如何セン貧弱
デアル、軍部ノ豫算ナドニ比較スルト九牛ノ
一毛ニ過ギナイ、然ルニ今回茲ニ提案サレ
タ本法案ヲ實施スルニ當リマシテハ、先程
申上ゲマシタヤウニ非常ニ手續ガ煩瑣ニナ
リ、裁判所ノ關與スル部分ガ増大サレルノデ
アルカラ、從來ノ如キ裁判所ノ當局ダケデ
ハ、ソレコソ經濟上ニ非常ナ相剋ヲ來スコ
トハ火ア観ルヨリモ明ダト思ハレル、何ト
ナラバ非常ニ手續方多クナリ、監督取締ガ
非常ニ多イノデアリマス、ソコデ司法省ノ

ノ增加ヲ圖リ、優秀ナル司法官ヲ採用スル
ト云フコトガ、必然的ニ必要ニナッテ來ルノ
デアリマスガ、先程申上ゲタヤウニ甚ダ司
法省ノ豫算ガ從來貧弱デアル、其貧弱ナル
原因ヲ探究シマスレバ、色々ノ原因モアリ
マセウケレドモ、私ハ之ヲ更ニ増大セシム
ル一ツノ方法トシテ、一體從來ノ司法當局
ハ在野法曹、其中デモ殊ニ議席ヲ有スル在野
法曹等ニ對スル緊密ナル連絡方缺ケテ居ル
ノデハナカラウカ、少クトモ司法當局ニ對
スル在野法曹ノ認識ハ、他ノ一般人ヨリモ
少クトモ同情アリ、又深イ認識ヲ持ッテ居ルト
確信スルノデアル、故ニサウ云フ議席ヲ有
スル者ト、尙更ニ一層ノ緊密ナル連絡ヲ
圖ツテ、意思ノ疏通ヲ促シマシテ、サウシテ
政府當局ニ當ツテ、政府當局ヨリ必要ナル豫
算ヲ獲得セラレテ、本法實施ノ效果ヲ擧ゲ
ラレルコトガ、特ニ必要ダト思フノデアリ
マスガ、此點ニ對スル司法大臣ノ御所見ヲ
伺ツテ置キタイノデアリマス

マシテ、部下一同ヲ督勵致シタイト考ヘテ居リマス、又辯護士カラ判事ニ採用スルコトモ、努メテ御趣旨ニ副ヒタイト考ヘテ居ハ、固ヨリ御同意デアリマスルガ、漸ニ漸ヲ追ウテ進ムベキモノト考ヘテ居リマス、本法ノ實施ニ付キマシテハ、監督竝ニ手續ノ上ニ於キマシテモ、非常ニ人員ノ不足ヲ感ズル次第モアリマスルカラ、豫算ニ付テハ十分ニ努力スル考デ居リマス、何卒外部ノ各位ニ於カレマシテモ直接、間接御援助アランコトヲ切望スル次第デアリマス、殊ニ法曹代議士諸君ノ御援助ヲ、尙更切望スル次第デゴザイマス

ト云フ時代デアリマスガ爲ニ、稅金等ノ色々居ッタノデアリマス、其立前カラ動トモスルト、會社ノ保護ニ偏シ過ギテ、債權者其他第三者ニ對スル保護ガ、幾ラカ缺ケテ居ルノデハナイカト云フヤウナ感じガ、致シタノデアリマス、併ナガラ今ヤ會社自體ノ堅實ヲ期スルト云フコト其モノモ、第三者ニ對スル利益ノ擁護ニナルト云フコトガ言ヘルカモ知レマセヌケレドモ、會社ト第三者、又債權者トノ立場ニ於テ考ヘルト、今後ノ時勢ハ會社其モノヨリモ、第三者、債權者ヲ保護スルヤウナ制度ニナツテ行クベキモノデハナイカト思フノデアリマス、會社自身ハ自分で經營ヲ善處スル力ヲ持ツテ居ル、債權者其他ノ第三者ハ、色々ノ方面ニ於テ不測ノ損害ヲ受ケル、是ハ法ノ運用ニ依リ、ソコニサウ云フ相違ガ出來ル、會社ハ自衛ジテ行キマスガ、債權者、第三者ハ動モスルト其保護ガ遅レ勝チニナリマス、所ガ今度此法ニ依リマシテ、相當第三者ヲ保護スルヤウニ進メマシテモ、法律ノ解釋ハ、成べ性質カラ見マシテモ、法律ノ解釋ハ、成べク第三者保護ニナルヤウナ傾向ニ御解釋ヲ

仕向ケテ行ク、是ヘ債務調停デアリマシテモ、商事調停デアリマシテモ、小作調停デアリマシテモ、此調停ハヤハリ法ノ運用デアリマシテモ、之ヲ運用スル判事ノ氣持モ時勢ノ波ニ乘ツテ、今ノ場合第三者ヲ保護スルト云フ傾向ニナシテ居ルノダト云フ頭ガ必要デハナイカ、從來ノ資本主義ハ會社ヲ餘り保護スル、今度ハ債權者ト第三者ヲ保護スルト云フヤウナ、社會的ノ恰好デアリマスルト云フヤウナコトガ、社會ト適合スルノデハアルマイカト思フノデアリマスガ、司法大臣ノ御所見ハ如何デアリマスカ、モウ一つハ商法ノ中ニ商業帳簿ノ規定ガアリマス、是ハ何等制裁規定モアリマセヌシ、作ツテモ作ラナクテモ、チットモ變ラナイ、會社以外ノ商業帳簿ト云フモノハ、裁判所ニ提出ノ義務ハアルノデアリマスルケレドモ、自分ノ不利益ノ場合ニハ、作ツテ居リマセヌト言ヘバ、其場合裁判所ハソレニ對シテ、不利益ナル所ノ地位ニチットモ置クコトノ出来ナイ事情ニナツテ居リマスノデ、規定デアルノデハナイカ、商人自身ノ利益ノ場合ニハ提供スルガ、不利益ノ場合ニハ提供シナイ、商業帳簿ハ債權者其他一

思ツテ居ル故ニ、ドウシテモ之ヲ作成スペキ
義務ヲ、モウ少シク徹底セシムルヤウナ、
制度ヲ、何カノ方法ニ於テ實現セラレル御
考ハアリマセヌカドウカ

ソレカラ最後ニ罰則ノ關係デアリマスル
ガ、人間ノ感情ト云フモノハ、新シイ著物
ガ出來ルト直グ之ヲ著タイヤウナ氣持ガス
ル、餘リ上等ナモノデモ、古イモノハ著タ
クナイ、今日三越カラ新シイ著物ヲ買ツテ
來ルト直グ著タクナル、新シイ法律ガ出來
ルト、ドウシテモソレヲ運用シタクナル、
檢事モ新シイ法律ガ出來マスト、新シイモ
ノダカラ直グ、イヤ良イモノガ出來タト云
フノデ、物好キニデモヤリタガル、是ハ感
情デアリマス、所ガ片方ハ新シイ法律ガ出
來テモ、社會ニハ惰性ト云フモノガアル、慣
習ト云フモノハ中々抜ケナイ、從來ハ此法
ニ觸レルヤウナ行爲ガアツテモ、罰ニハナラ
ナカツタノデアリマス、サウ云フ習慣ガアル
カラ平氣デ、或ハ法ガ出來マシテモ、ヤリ
通シテ行クト云フヤウナ傾向ニナル、徐々
ニソレガ直ツテ行ク——選舉法ト同ジヤウ
デアリマス、徐々ニ是ハ自覺ハシマスルケ
レドモ、惰性ト云フモノハ直グニハ直ラナ
イ、片方ハ新シイ著物ガ著タイ、片方ハ惰

アルノデハナイカト思ヒマス、是ガ出来マシテモ普追ノ刑法ノ罰則ト同ジデアル、新シイコトニナラナイデ、普通ノ刑罰法規ト變ラナイデ行クヤウナ氣持ヲ、何トカシテ與ヘテ下サルヤウニ願ヒタイ、是ハ吾々ノ経験ニ依ッテモ、サウ云フ氣持ガスルノデアリマス、新シイ法律ハ直グ運用シタイ、ドウモ社會的ナ力——サウ云フ惰性ト、今ノ新シイ法律ノ實現スルヤウニ試ミテ見タイント云フ氣持ガ、ドウシテモ起ルノデアリマス、其邊ノ調和ヲ一ツ——老婆心デハアリマスルケレドモ御願シテ、大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイト思フ次第デアリマス

付テノ御注意ハ、洵ニ御尤デアリマシテ、殊ニ若キ検事達ニ對シテハ、特ニ十分ナル警告ヲ與ヘル必要ノアルコトハ同感デアリマス、此點ニ付キマシテモ十分ニ注意ヲ致ス積リデアリマス。

○仲井間委員 私共ノ經驗ニ依リマシテモ、又今迄ノ質問應答ニ依リマシテモ明カデゴザイマスル通リニ、法ノ效果ヲ擧ゲルト云フコトハ、法其モノヲ完全ニシテ行カナケレバナラヌ、ソレハ申スマデモナイ次第デアリマス、其法ヲ運用スル人其宜シキヲ得ナケレバナラヌ、斯ウ云フ點デアリマスルガ、左スレバドウシタナラバ其宜シキ人ヲ得ルカ、是ハ實際問題ニナリマスト、困難デアラウト思フノデアリマス、良イ人ヲ求メルト云フコトニ付キマシテハ、只今マデノ應答ニ依ツテ窺ハレマスル練習、講習、警告、是等モ一方法デアリマスルガ、人本來ノ宜シキヲ得ルト云フコトガ理想デナケラネバナラヌ、斯ウ考ヘルノデアリマスル、之ニモ色々方法ガアリマセウガ、私ハ力ヲ入ラレテ居ルノガ常ニ判檢事ニ限ラレテ居ルヤノ感ガアルト思フノデアリマス、申スマ記ト云フ者ガ居ルノデゴザイマシテ、書記

ノ向上發達ヲ圖ツテヤラナケレバ、ナラヌ、斯
ウ云フ風ニ私ハ考ヘて居ルノデアリマス、
ソレデ法ノ立前カラ申シマスルコトハ、總
テ判檢事ガ直接ニ取扱ッテ居ル、又取扱ハナ
ケレバナラヌノデアリマスルガ、實際問題
ト致シマスルナラバ、ヤハリ構成ニ連ツテ居
リマスル所ノ書記ノ力ヲ藉ルコトガ多イダ
ラウト思フノデアリマス、理論ノ上カラ申
シマスルナラバ、督促手續ナリ、執行手
續ナリ、非訟事件、戸籍事務ノ如キハ實際
カラ申シマスレバ、サウシタ人ノ力ヲ借ラ
ンケレバナラヌノデアリマスカラ、之ヲ強
ヒテ咎メル譯デハアリマセヌガ、斯様ナ時
代ニナツテ居マシテ、司法事務ノ全體カラ考
ガ扱ッテ居ルノデアリマス、其書記ガ扱ッテ
居ル所ノ事務ト云フノハ地方ノ民衆ニ直接ニ
關係ノアルコトデアリマシテ、寧ロ此地方
ノ風俗慣行等ニ付キマシテハ、判事ヨリ良
キ知識ヲ有ツテ居ルダラウト思フノデアリ
マス、殊ニ判檢事諸公ハ大學ヲ出マシテ、
直グ月給取りニナラレルト云フヤウナ次第
デゴザイマシテ、サウシテアチラコチラト

短キ期間ニ轉勤セラレルト云フノデアリマスカラ、地方ノ事務ニ通曉セラレルコトガ淘ニ薄イノデアリマス、斯様ナ次第デアリマスルカラ、特定ノ書記ニ進路ヲ與ヘマシテ、特別ナ任用ニ依リマシテ、サウシテ判檢事ニ之ヲ採用スル途ヲ開クト云フコトハ、ドウデアラウカ、是ハ多年法曹界ノ問題トナツテ居リマシテ異論ノアルコトモ考ヘマスルガ、之ヲ加味スルト云フコトハ大キイ廣イ範圍ニ於テ司法部ヲ向上セシメル所以デハナイカ、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ今一ツハ資格ヲ判檢事ニ上ゲルト云フ以外ニ書記ノ待遇ヲ今少シ向上サセタイ、是ニモニ通リノ方法ガアリマシテ、一ツノ方法八月給ヲ上ゲルト云フコト、今一ツハ書記ヲ少クトモ一地方裁判所ノ管内ニ於キマシテハ、本廳及ビ支部ノ裁判所及ビ檢事局ノ監督書記ハ高等官ニスルト云フコト、是ハ我國從來ノ情勢カラ考ヘマシテモ、茲數年前迄ハ監督書記ノ居リマス地方ノ警察署長ハ、總テ判任官デアル所ノ警部デアリマシタガ、今日ハ殆ド警視ニナツテ居リマシテ、淘ニ權衡ヲ得テ居ナイノミナラズ、苟モ地方ノ判檢事諸公ノ爲ス以外ノ仕事ヲ全部司ツテ居リマス所ノ書記ノ待遇ガ、一判任官デアリマスルト云フコトハ、他ノ行政官吏ニ比シ

クシテ、判検事ニ對スル一ツノ書記ノ威力
ト云ウテモ宜イデゴザイマセウカ、一ツノ
權威ニ於テ非常ニ缺クル所ガアリハシナイ
カ、判検事ハ只今申シマスヤウニ、其地方
ニ行キマスレバ鄉ニ入シテハ鄉ニ從ヘデ、其
地方ノ慣習ニ親マナケレバナラス、其指導
者ハ寧ロ書記ニアルノデアリマスカラ、是
ハ一ツノ資格ヲ與ヘマシテ、少クトモ一地
方裁判所管内デハ裁判所及ビ檢事局ノ監督
書記ダケハ、高等官ニシテヤルト云フ進路
ト、モウ一ツハ序デニ此機會ニ於テ私ハ之
ヲ公證人ニ使フト云フ制度ヲ與ヘテヤラナ
ケレバナラナイト思フ、申スマデモナク只
今ノ制度ニ於キマシテモ、公證人ノ居ラナ
イ所デハ書記ガ公證人ノ事務ヲ執ツテヤッテ
居リマスガ、今日マデノ經驗ニ依リマシテ
ハ、一ツノ弊害モナイノデアル、又其職務
ヲ有ツテ居ルノデアリマスカラ、只今マデノ
ヤウニ高イ俸給ヲ以テ、サウシテ高位高官
トナツテ退職致シタ判検事ニ、更ニ職ヲ與ヘ
ルト云フコトヨリハ、此書記ニ此進路ヲ與
ヘマスナラバ、書記全體ノ士氣ニモ關係致
シマスシ、隨テ又書記以下ノ雇ノ氣分ノ上
ニモ非常ニ影響ヲ及ボスコトデアラウト思
フノデアリマス、要スルニ斯ノ如ク致シマ

マシテ、朗カナ司法界ニ導クコトガ出來ヤウ、斯様ニ考ヘマシテ、要スルニ法ノ完璧ナル法ノ運用ハ要スルニ人ニアリ、人ヲ求メルニハ如何ナル方法ヲ以テスルカト云フコトニ付テノ一方法トシマシテハ、斯様ニ考ヘテ居ルノデゴザイマスルガ、此機會ニ幸ヒ司法大臣ガキラッシャルノデアリマスカラ、ハッキリシタ御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス

○鹽野國務大臣 全ク御説ノ通リニ、法ノ運用ニ付キマシテハ、人ヲ得ルコトガ第一義デゴザイマス、此點ニ付キマシテハ、十分ニ御趣旨ニ副フヤウニ致シタイト考ヘルノデアリマス、判任官タル書記ノ待遇向上ニ付テノ御説ハ、洵ニ傾聽スペキモノガアルト考ヘマス、御説ノヤウニ從來裁判、檢察事務ノ改善ト云フコトニ付キマシテハ、主ニ判檢事ノ待遇改善ト云フ方面ガ論ゼラレテ居リマシタ、併ナガラ裁判、檢察事務ノ運用ノ實際ハ、其判事、檢事ノ手足デアリマスルト申シマスカ、書記トシテ獨立ノ職務ヲ有ツテ居リマスル、ソレ等ノ人々ガ有能デアリ、而シテ事務ノ進捗ノ上ニ、實際上大ナル關係ヲ有ツテ居ルコトハ争ハレナイ

ニ付テ光明ヲ認メルカ否ヤト云フ點ガ、現在ノ能力ヲ發揮スル上ニ於キマシテモ、非常ニ關係ノアルコトデアリマス、御說ノ如ク其進路ニ付キマシテハ、考フベキコトデアリマシテ、當局ト致シマシテモ、之ニ付テ考究ハ致シテ居ルノデアル、高等官ニ致シマスルコトモ洵ニ結構ナコトデアリマスルガ、只今ノ所僅ニ控訴院ノ監督書記ヲ書記長ニ直シ得タト云フヤウナ程度デアリマス、漸次司法裁判所ノ書記、檢事局ノ監督書記ト云フモノモ高等官ニ直スヤウニ努力スル積リデ居リマス、尙ホ書記ノ俸給ニ付キマシテハ、是ハ洵ニ少イノデアリマシテ、他ノ官廳ノ判任官ニ比ベマスルト餘程劣ッテ居リマス、是ハ司法部ノ高等官モ亦他ノ官廳ノ高等官ヨリ劣ッテ居リマス、高等官竝ニ判任官ノ俸給ヲ上ゲルト云フコトニ多年努力ヲ致シテ居リマシテ、僅ニ昨年ニ於キマシテ高等官ノ方ハ略、平均ニ近クナッテ參リマシタガ、尙ホ判任官ニ付テハソレ程ニ參テ居リマセヌ、ソレハ早速來年度ニ於テモ努力シタイト考ヘテ居ル所デアリマス、又退職後ニ於ケル相當就職ノ途ヲ開クト云フコトモ、洵ニ結構ナ御說デアリマス、斯様ナ點ニ付キマシテハ、成ベク早ク之ヲ實現

來ルモノカラ實現ヲ致シタイト考ヘテ居ル
次第デゴザイマスガ、此點ニ付キマシテハ
豫算ニ關係スルコトガ多イト考ヘマスノデ、出
是ハ又各位ノ外部カラノ御援助ヲモ大イニ
期待スル次第デアリマス、然ルベク願ヒタ
イモノデアリマス

○内藤委員 二點ダケ御伺致シマス、一ツ
ハ司法制度改善調査會ト云フモノガ、何レ
出來ルデアラウト思ヒマスガ、此委員ニ付
テハ從來ノ如キ官吏ヲ多クセズシテ、民間
側カラ少クトモ過半數以上各方面カラ御採
リニナルコトノ考ガアリマスカドウカト云
フコトヲ、此際御言明ヲ願ッテ置キタイト思
ヒマス、尙ホ申上ゲテ置キマスノハ、辯護
士會長ハ必ズシモ偉イ者デモアリマセヌ、
ア、云フモノハ世間デ謂坊主廻り見タヤ
ウナモノデ一年位デ交替スル(笑聲)ア、云フ
今日ノヤウナヤリ方デハ駄目デス、デアリ
マスカラ會長標準ト云フコトハ御止メニナッ
テ、兎ニ角民間側ニ相當知識經驗ニ富ンダ
方ガアリマスカラ、會長ノミニ限ッテト云フ
ハズ、其他ノ方ト云ハズ、練達堪能ノ士ヲ
少クトモ過半數以上御求メニナッテ、御ヤリ
ニナル御考ガアルカドウカト云フコトヲ、

一ツ伺ッテ置キマス、ソレトモウ一ツハ又シ
テモ豫算ノコトデアリマスガ、是ハ事務官ニ對
スル質問デハアリマセヌ、大臣トシテ大乘的ニ考
ニ一ツ考ヘテ戴キタイ、司法省ノ總テノ豫算
ヲ特別會計ニシタラドウデス、サウシテ罰金
若クハ收入デ取ッタ金ヲ司法省ノ豫算ニ取ッ
テ、残ツタモノハ大藏省ニ納付ラスル、少ク
トモ是デ宜イト思フ、サウスルト無理ニ體
刑ヲシナクトモ罰金デ済マシ得ルモノガ澤
山アツテ、私ハ可ナリ收入ガアルト思フ（笑
聲）ソレカラ登記所デ使フ金モ大キナモノ
デス、尙ホ大臣御氣付キナインラバ事務的
ノコトデ捨テ難イモノヲ申上げマスガ、遞
信省ガヤツテ居リマス印紙デス、是ハ規則ニ
依ルト口錢ガ二分ト云フコトデス、假ニ裁
判所ノ登記所デ三百万圓ノ印紙ヲポン／＼
ト貼ルト、二三ガ六万圓利益ガアル、大變
ナ話デス、アナタ方ガ今六万圓ノ金ヲ大藏
省ニ貰ハウトシタラ、大臣ガ閣議ニ政治的
折衝ヲシナケレバナラヌ、サウ云フコトヲ
セズデ取レル方法ヲ私ガ教ヘルノデスガ、
ドウデス、大臣ハサウ云フコトヲ大乘的ニ
考ヘテ、將來司法省内デ使フ收入印紙若ク
ハ郵便切手、之ヲ控訴院管内ト云フト語弊
ガアリマスガ、控訴院所在地ダケデヤツテ
モ何百万圓ト云フ金ガ年ニ取レル、大藏省

ニ頭ヲ下ゲナクトモ宜イ、サウ云フ良イ方
法ガアルノデスガ、大臣トシテ大乘的ニ考
ヘテ御ヤリニナル御考ガアルカドウカ、此
際承ッテ置キタイ、ドウデス、御ヤリニナッテ
ハ如何デス、是ハ大臣トシテ答辯スペキ絶
好ノ問題ダト思ヒマス（笑聲）

○鹽野國務大臣 明年度ニ於キマシテ早速
司法制度ノ改革ニ付テ、調査會ヲ設ケマス
ルガ、其委員ノ人選ニ付キマシテハ、マダ
能ク考ヘテ居リマセヌ、併ナガラ割合ヲ官
吏ヲ多クスルカ民間ヲ多クスルカト云フコ
トニ付キマシテハ、御趣旨ニ副フヤウニ考
慮致シタイト考ヘテ居リマス、尙ホ第二ノ
特別會計ニシテハドウカト云フ御勸デアリ
マシテ、洵ニ結構ナコトデ、司法省ノ豫算
ノ收入支出ヲ見マスト、三千万圓バカリ政
府ヘ納メテ居ルヤウナ譯デアリマス、獨立
會計ニナリマスト、ソレダケ餘裕ガ出來ル
ヤウナ譯デ、洵ニ結構デアリマス、ガ併ナ
ガラ是ハドウモ私ガ大乘的ニ一ツヤツテ見
テモ、實現ハ頗ル困難ト考ヘマス、併シ宜
イコトヲ教ヘテ戴キマシタカラ、大イニ奮
發シテ見タイト考ヘテ居リマス

○中野委員 前ノ御尋ニ繼續シタ事柄デア
リマスガ、今日マデノ制度ニ依リマスレバ、
判檢事ハ學問試験ニ依ッテノミ採ルト云フ
ニ頭ヲ下ゲナクトモ宜イ、サウ云フ良イ方
法ガアルノデスガ、大臣トシテ大乘的ニ考
ヘテ御ヤリニナル御考ガアルカドウカ、此
際承ッテ置キタイ、ドウデス、御ヤリニナッテ
ハ如何デス、是ハ大臣トシテ答辯スペキ絶
好ノ問題ダト思ヒマス（笑聲）

○鹽野國務大臣 明年度ニ於キマシテ早速
司法制度ノ改革ニ付テ、調査會ヲ設ケマス
ルガ、其委員ノ人選ニ付キマシテハ、マダ
能ク考ヘテ居リマセヌ、併ナガラ割合ヲ官
吏ヲ多クスルカ民間ヲ多クスルカト云フコ
トニ付キマシテハ、御趣旨ニ副フヤウニ考
慮致シタイト考ヘテ居リマス、尙ホ第二ノ
特別會計ニシテハドウカト云フ御勸デアリ
マシテ、洵ニ結構ナコトデ、司法省ノ豫算
ノ收入支出ヲ見マスト、三千万圓バカリ政
府ヘ納メテ居ルヤウナ譯デアリマス、獨立
會計ニナリマスト、ソレダケ餘裕ガ出來ル
ヤウナ譯デ、洵ニ結構デアリマス、ガ併ナ
ガラ是ハドウモ私ガ大乘的ニ一ツヤツテ見
テモ、實現ハ頗ル困難ト考ヘマス、併シ宜
イコトヲ教ヘテ戴キマシタカラ、大イニ奮
發シテ見タイト考ヘテ居リマス

○中野委員 前ノ御尋ニ繼續シタ事柄デア
リマスガ、今日マデノ制度ニ依リマスレバ、
判檢事ハ學問試験ニ依ッテノミ採ルト云フ
ニ頭ヲ下ゲナクトモ宜イ、サウ云フ良イ方
法ガアルノデスガ、大臣トシテ大乘的ニ考
ヘテ御ヤリニナル御考ガアルカドウカ、此
際承ッテ置キタイ、ドウデス、御ヤリニナッテ
ハ如何デス、是ハ大臣トシテ答辯スペキ絶
好ノ問題ダト思ヒマス（笑聲）

○鷹馬監督 次第に御考慮ヲ拂ツテ戴キ

コトニナッテ居リマシテ、體格ト云フコト

ニ付テハ呼吸器病ダケハ考慮ニ入レテ居ラ

レルト云フコトデアリマスガ、併ナガラ資

格其モノハ學問ト云フコトヲ標準トシテ採

ラレテ居ルノデアリマスカラ、實際問題ト

シマシテハ其試驗當時ニハ學問ガ能ク出來

テ居リマシテモ、造物主ノ公平ナル、運動

ヲ顧ミナイデ學問ヲスレバ、學問ノ方ハ出

來テ參リマシテモ、體格ハ宜シクナイ、體

ト云フ一事ヲ以テ御逃レニナルカモ知レマ

セヌガ、ヤハリ調ベル場所モ、ソレ相應ナ

自覺ヲ以テ臨マナケレバナラヌ、神聖ナ訟

ト云フ

ナイト思フノデアリマスガ、サウ云フコトニ付キマシテ、ヤハリ其局ニ當ル所ノ、例ヘバ所長、會計課長ト云フヤウナ人達ハ、サウ云フコトニ向ッテモ、意ヲ御用ヒ下サイマシテ、サウシテ裁判所ノ體裁其他ニ於キマシテ進歩致シマスレバ、ヤハリソレガ直接間接事務ノ向上發展ニ資スル所ガ少カラスコト考ヘル次第アリマスルガ、サウ云フ點ニ付テノ御所見ハドウ云フ風デアルカ

同ヒタイ

○鹽野國務大臣 司法官試補ノ採用ニ付キ

マシテハ、相當嚴重ナ體格検査ヲ致シテ居リマシテ、結核バカリデナク、他ノ腎臓共他臓器ノ病ニ付キマシテ、検査ヲ致シテ居リマス、弱イ者ハ採用ヲ致サナイノデアリマス、儲テ強イ者ト申シマシテモ、其人物ノ優良ナ者デナケレバ相成ラヌノデアリシテ、此點ニ付テハ從來學課試験ニ重キヲ置イテ居ツタノデアリマスガ、近年ハソレデハマダ足リナイト云フノデ能ク性行ヲ調べマシタリ、又試験委員數名ガ直接本人ニ會ヒマシテ、口頭ノ試問ヲ致シマシテ人物ノ考査ヲ致シマスヤウナコトヲ致シテ、單ニ學識試験ノ成績ノミニ重キヲ置カヌヤウニ努メテ居ル次第アリマスガ、併シドウモ短時間ノ間ニ人物ヲ見ルト云フコトモ困難

ニアリマスカラ、先づ第一ハヤハリ學課ノ試験、サウシテソレ以外ノ經歷、家庭其他ニ調査ヲ書類ニ依リマシテ、採ルヤウニ致シテ居リマスガ、方針ト致シマシテハ、學

課第一主義ト云フノハ、既ニ拋棄致シテ居ルヤウナ次第アリマス、尙ホ此點ニ付テ

ノ調査ヲ書類ニ依リマシテ、採ルヤウニ致シテ居リマスガ、方針ト致シマシテハ、學

課第一主義ト云フノハ、既ニ拋棄致シテ居ルヤウナ次第アリマス、尚ホ此點ニ付テ

ノ調査ヲ書類ニ依リマシテ、採ルヤウニ致シテ居リマスガ、方針ト致シマシテハ、學

課第一主義ト云フノハ、既ニ拋棄致シテ居ルヤウナ次第アリマス、尚ホ此點ニ付テ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

マセヌカ

ハ十分ニ注意ヲ致シマス、第一ニ法廷ノ設備ニ缺クルモノアルコトハ洵ニ申譯ナイ次第アリマス、明治二十年來ノ建築物ガ隨

分残シテ居リマス、朽廢致シマシテ、法廷ノ威嚴等ヲ損ジテ居ルコトハ大デアリマス、漸次此改築ニ心配ヲ致シテ居リマス、豫算ノ問題ガアリマスルカラ、思フヤウニハ参

リマセヌガ、御注意ノ點ハ十分ニ改善スペク努力致スヤウニ致シマス、第三ニハ職員ガ場所ヲ愛スルコト、是ハ成程精神上良好ノ影響ヲ與フルコトデアリマシテ、是ハ全國職員ニ對シテ御趣意ノヤウナ注意ヲ與ヘタイト考へマス

午後四時十分散會

午後四時十分散會

○野村委員長 山本君ノ動議ニ御異議アリノ動議ハ成立致シマシタ
〔速記中止〕

マセヌカ

○野村委員長 ソレデハ次會ハ十九日午後一時ヨリ開クコトニ致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

〔速記中止〕

○山本委員 大分質問ヲ連日ニ瓦ツテヤツテ居リマスルカラ、商法中改正法律案外二件ノ質問ハ一應之ヲ以テ打切リマシテ、明日ノ午後アタリカラ討論採決ヲシ、明後日ノ本會議ニ上程スルト云フヤウナ意味デ、質問打切ノ動議ヲ提出致シマス

〔賛成」「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕